



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

早稲田大学はチームマイナス6%に参加しています



★早稲田大学は環境マネジメントシステムを運用しています。

★発行日：2010年3月

★発行：早稲田大学エコフューチャー事務局

★お問い合わせ先：早稲田大学総務部環境安全管理課 〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

Tel 03-3204-9766 Fax 03-3203-7051 E-Mail [ecofuture@list.waseda.jp](mailto:ecofuture@list.waseda.jp)

<http://www.waseda.jp/ecocampus/eco/index.html>

★関連情報はホームページをご覧ください。★環境・安全報告書に関するご意見をお待ちしています。

★こちらからPDFデータをダウンロードできます。

<http://www.waseda.jp/ecocampus/eco/report/index.html>

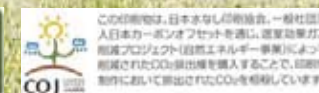
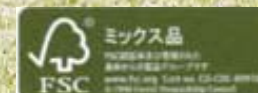
# 早稲田大学 環境・安全報告書

～早稲田大学の社会との取り組み～

WASEDA UNIVERSITY  
Environmental & Safety & USR Report



## 2008-09



# グローバルユニバーシティ「WASEDA」たるに ふさわしい地球環境保全への貢献に向けて

今、人類が直面している問題は、山積しています。  
特に、地球温暖化をはじめとした環境問題の与える影響は、世界的に深刻さを増しており、地球環境を配慮し、かつ安全で安心で  
きる人類社会の構築が地球規模での課題となっています。

そのような中、早稲田大学は、環境問題、資源問題、人口問題、  
貧困問題といった地球規模の課題解決のため、「国境を超えた真理」の追究、地球市民の育成、国際的な研究大学への飛躍をと  
おして、世界に通用するグローバルユニバーシティ「WASEDA」  
の確立を目指し、日々努力しています。

早稲田大学は、私立大学としてはいち早く、1979年12月に  
実験系廃棄物の適正処理や化学薬品の安全管理などを行う環  
境保全センターを設立するなど、様々な環境保全活動に先導的  
に取り組んできました。地球環境と社会の関係の中で先見性と  
積極性を持って問題解決に向け、大きな役割を果たしてきたこと  
は、早稲田大学らしい環境保全活動の特徴といえ、その伝統は  
今日まで連綿と受け継がれています。

例えば、環境研究の分野では、環境総合研究センターで電気自  
動車の実用化に向けて開発・実験中の先進電動マイクロバス「W  
EB (Waseda advanced Electric micro Bus)」が、世界水準  
の環境性能を実証し、環境省の平成21年度「産学官連携環境先  
端技術普及モデル策定事業」に採択されました。また、企業との  
共同研究も活発に行われています。

教育面では、全学部の学生が履修できるオープン教育科目に  
環境関連のテーマスタディ(全学共通副専攻)を設置し、より環  
境領域の学問を学びやすくしました。授業にボランティア活動を  
積極的に取り入れ、知識の習得と実践を共に行うサービスマ  
ーニングを展開することで、問題解決力を身につけた学生を育成  
するなど、地球規模の環境問題解決という大きな目標に向かっ  
て全学的に取り組んでいます。また、この夏には、本学と海外の  
大学が連携し、早大生と外国人学生が環境や安全など地球規模  
の課題に対して、英語で調査や議論を行う「グローバル・オー  
ナーズ・カレッジ」というあらたなプログラムも始めました。

このように、早稲田大学は、世界水準の研究を推進し、グロー  
バル化に対応した教育の充実を図りながら、人類社会のために

行動する「地球市民」とアジアならびに世界のリーダーの育成・  
輩出を目指しています。

さらに、学校法人全体では、現在、環境宣言に掲げられた方針  
のもと、独自の環境マネジメントシステムを運用し、様々な環境  
保全活動を体系的に、組織的に実施しています。本学は、地球温  
暖化対策では、「ワセダから止めよう!温暖化」というキャッチフ  
レーズで、私学の中でも比較的取り組みの進んでいる存在です  
が、近年、学内の新築建物の増加などに伴い、温室効果ガスの総  
排出量は増加傾向にありますので、大学の社会的責務として、こ  
れまで以上に積極的にこの問題に取り組んでいきます。

また、2010年度からは、東京都の環境確保条例の改正・施行  
により、温室効果ガス総排出量の削減の義務化という厳しい事  
業者責任が問われることを受け、地球温暖化抑制・省エネルギー  
を重点的な課題として位置づけ、その削減目標の達成に向けて、  
全学一丸となって取り組みを始めています。

今後も空調機器や照明などの設備面の改修・更新に力を入れ  
ていながら、教職員が一体となって省エネルギー活動の推進、  
その他ボランティア・学生サークルの活動支援といった運用面  
での取り組みを積極的に実施していきます。そして、地域を含  
め、この早稲田から世界に地球温暖化対策の輪を広げ、エコ・  
キャンパスの実現を先導していけるよう、活動を加速させていく  
所存です。

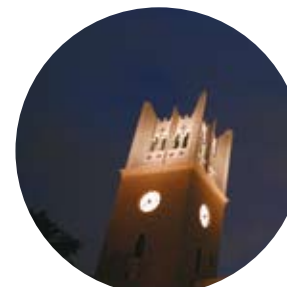


2010年3月  
早稲田大学 総長

白井 克彦

□→ 環境報告書ガイドライン対応項目

|     |                                                  |    |                                |
|-----|--------------------------------------------------|----|--------------------------------|
| 0 1 | トップメッセージ                                         | 1  | 経営責任者の緒言                       |
|     | 「グローバルユニバーシティ「WASEDA」たるに<br>ふさわしい地球環境保全への貢献に向けて」 |    |                                |
| 0 3 | 早稲田大学の概要                                         | 2  | 報告に当たっての基本的要件                  |
| 0 4 | 早稲田大学組織図                                         |    |                                |
| 0 5 | 環境への取り組み                                         |    |                                |
| 0 6 | 環境マネジメントシステム                                     | 8  | 環境マネジメントシステムの状況                |
| 0 7 | 早稲田大学環境宣言                                        | 4  | 事業活動における環境配慮の方針                |
| 0 8 | 2009年度環境目標・2008年度環境目標と達成状況                       | 5  | 事業活動への環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括 |
| 0 9 | 環境負荷データ                                          | 6  | 事業活動のマテリアルバランス                 |
|     |                                                  | 14 | 総エネルギー投入量及びその低減対策              |
|     |                                                  | 16 | 水資源投入量及びその低減対策                 |
|     |                                                  | 17 | 温室効果ガス排出量及びその低減対策              |
|     |                                                  | 18 | 化学物質排出量・移動量及びその低減対策            |
|     |                                                  | 20 | 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策      |
|     |                                                  | 21 | 総排水量及びその低減対策                   |
| 1 0 | 実験系廃棄物の管理状況・水質管理状況                               |    |                                |
| 1 1 | 環境関連授業                                           |    |                                |
| 1 2 | 環境関連教員・研究                                        |    |                                |
| 1 3 | 学生の環境ボランティア活動                                    |    |                                |
|     | 国際交流を通じて環境問題を学ぶ                                  |    |                                |
| 1 4 | 地域と共に                                            |    |                                |
|     | キャンパスと自然                                         |    |                                |
| 1 5 | 環境に関するコミュニケーション                                  | 11 | 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況          |
|     | 着実に改善                                            |    |                                |
| 1 6 | 環境保全活動の歩み                                        |    |                                |
| 1 7 | トピックス1 学生の環境保全活動                                 |    |                                |
| 1 8 | トピックス2 環境関連研究クローズアップ                             |    |                                |
| 1 9 | トピックス3 企業との共同研究                                  |    |                                |
| 2 1 | トピックス4 早大自販機省エネプロジェクト                            |    |                                |
| 2 2 | トピックス5 喫煙対策                                      |    |                                |
|     | トピックス6 PCリサイクル                                   |    |                                |
| 2 3 | トピックス7 早稲田大学生協の環境活動                              |    |                                |
| 2 4 | トピックス8 新築建物の環境性能(早稲田キャンパス新11号館)                  |    |                                |
| 2 5 | 安全への取り組み                                         |    |                                |
| 2 6 | 労働安全衛生の取り組み                                      |    |                                |
| 2 7 | 大地震に備えて                                          |    |                                |
| 2 8 | キャンパスセキュリティ                                      |    |                                |
|     | 吹付けアスベスト対策                                       |    |                                |
| 2 9 | シックハウス対策                                         |    |                                |
| 3 0 | 安全e-learningプログラム                                |    |                                |
| 3 1 | 化学物質の安全管理                                        |    |                                |
|     | 実験系の安全管理                                         |    |                                |
| 3 2 | 防火・救命の体制                                         |    |                                |
| 3 3 | 社会との取り組み                                         |    |                                |
| 3 4 | 早稲田文化の発信拠点として                                    |    |                                |
|     | 公開講座・生涯学習                                        |    |                                |
| 3 5 | 地域の小中学生に理科の楽しさを伝えたい! ユニラブ                        |    |                                |
| 3 6 | 共に学ぶ障がい学生への正しい理解と支援を推進                           |    |                                |
|     | 早稲田を体感! 個性豊かな学生ガイドによるキャンパスツアー                    |    |                                |
| 3 7 | Special Report ボランティアがつなぐ大学と社会                   |    |                                |



早稲田大学の概要

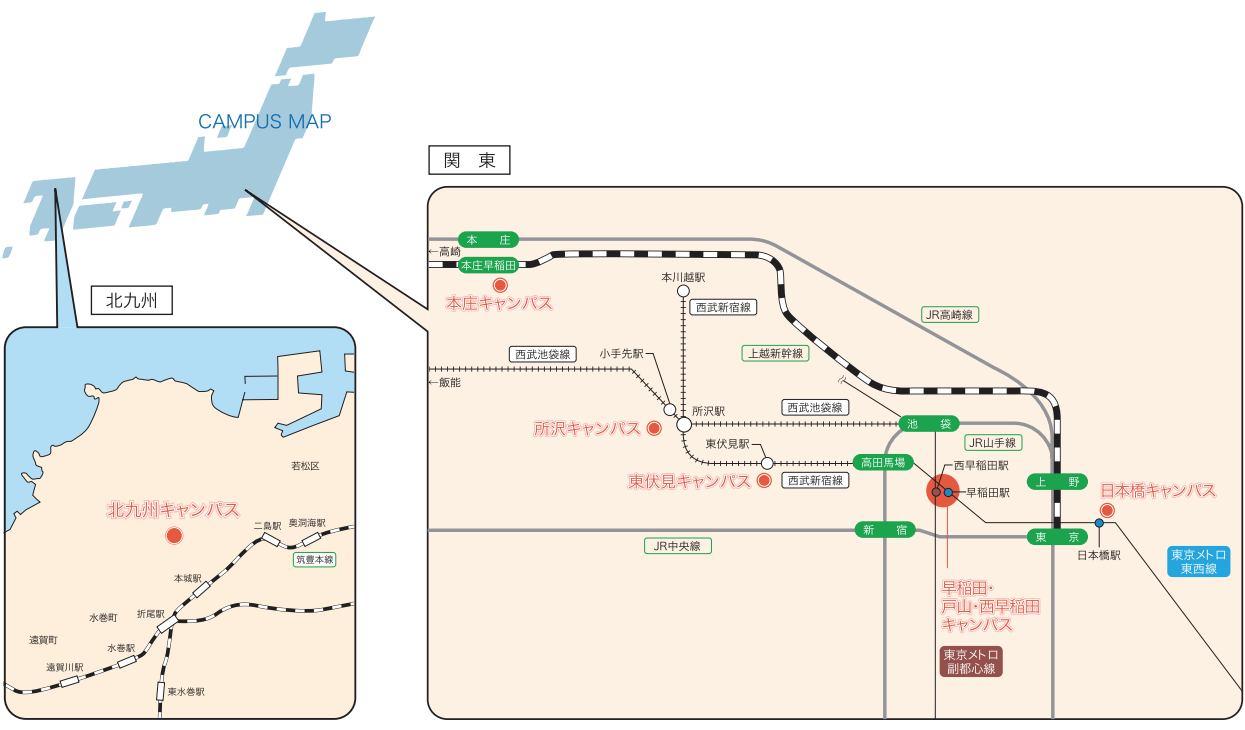
|                                                   |                           |                      |                                     |
|---------------------------------------------------|---------------------------|----------------------|-------------------------------------|
| 【名称】                                              | 【学部・大学院等】                 | 【キャンパス】              | 【学生数（2009年5月1日現在）】                  |
| 学校法人早稲田大学                                         | ■学部……………13                | 早稲田・戸山・西早稲田・日本橋      | ※（）内は、女性で内数。                        |
| 【創設者】                                             | ■大学院                      | 東伏見・所沢・本庄・北九州        | ③学部学生 44,829 (15,234)               |
| 大隈重信                                              | ・学部を基礎とする研究科……………12       | 【教職員数（2009年4月1日現在）】  | ※うち外国人留学生 996名<br>(科目等履修生など除く)      |
| 【沿革】                                              | ・独立研究科・専門職大学院……………10      | ※（）内は、女性で内数。         | ④大学院学生                              |
| http://www.waseda.jp/jp/global/guide/history.html | ■通信教育課程……………1             | ①教員                  | 修士 4,686 (1,388)                    |
|                                                   | (人間科学部通信教育課程)             | 専任・専任扱い 1,812 (237)  | 専門職学位 1,970 (643)                   |
| 【創立】                                              | ■別科……………1                 | 小計 6,538 (1,245)     | 博士 2,037 (703)                      |
| 1882 (明治15) 年10月                                  | (日本語専修課程)                 | ②職員                  | 小計 8,693 (2,734)                    |
| (東京専門学校開校)                                        | ■附属校・専門学校……………4           | 専任 799 (188)         | ※うち外国人留学生 修士 1,047名<br>(科目等履修生など除く) |
|                                                   | (高等学院、本庄高等学院、芸術学校、川口芸術学校) | 嘱託・その他 219 (113)     | 博士 396名                             |
|                                                   |                           | 小計 1,018 (301)       | 学生数合計 53,522 (17,968)               |
|                                                   |                           | 教職員数合計 7,546 (1,546) | (③+④)                               |
|                                                   |                           | (①+②)                | 【校友】 約55万人                          |
|                                                   |                           |                      | 【帰属収入】 約986億円                       |
|                                                   |                           |                      | 【敷地面積】 約212万平方メートル                  |
|                                                   |                           |                      | 【建物面積】 約65万平方メートル                   |

早稲田大学教旨

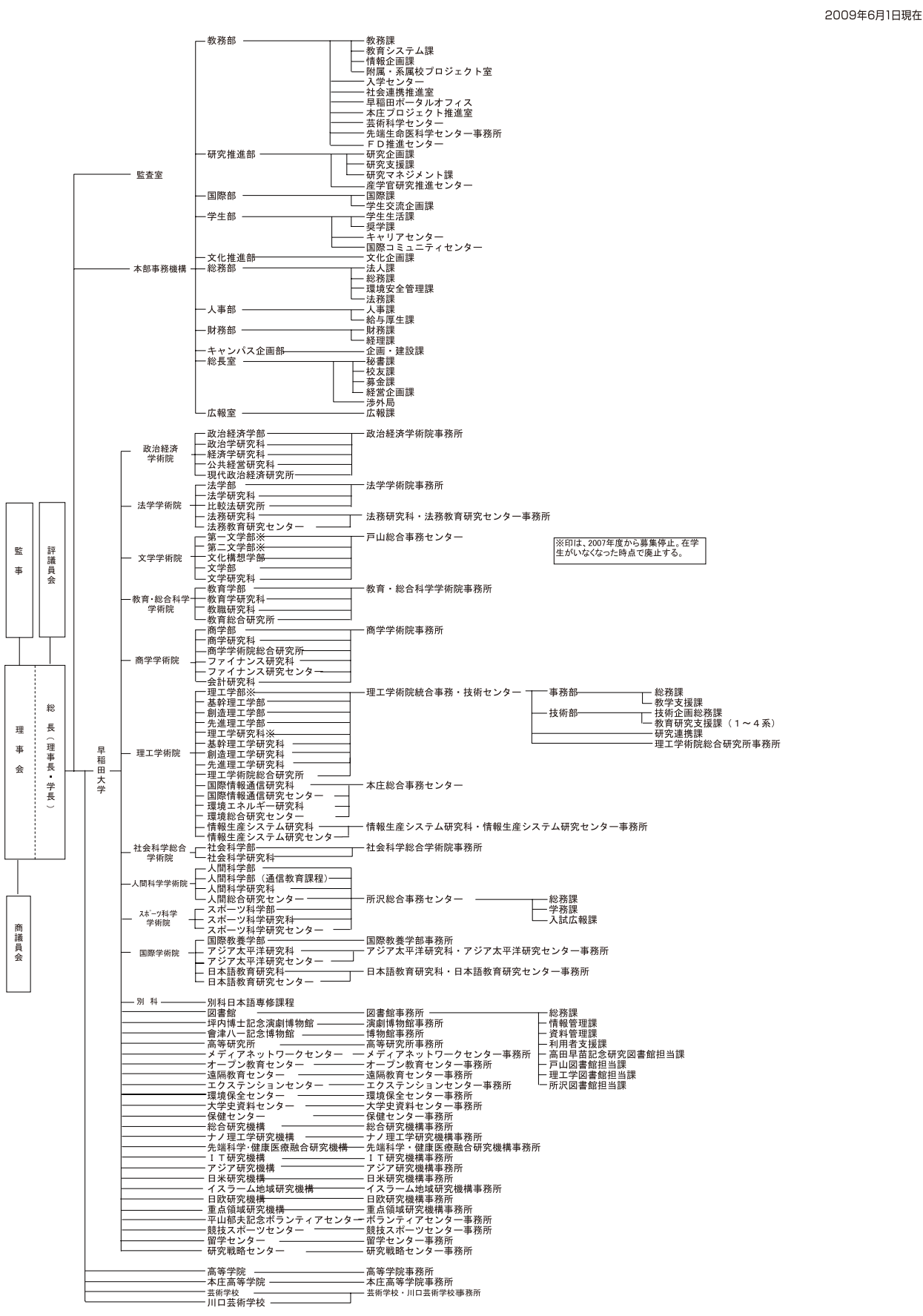
早稲田大学は学問の独立を全うし 学問の活用を効し  
模範国民を造就するを以て建学の本旨と為す  
早稲田大学は学問の独立を本旨と為すを以て  
之が自由討究を主とし  
常に独創の研鑽に力め以て  
世界の学問に裨補せん事を期す  
早稲田大学は学問の活用を本旨と為すを以て

学理を学理として研究すると共に  
之を實際に応用するの道を講し以て  
時世の進運に資せん事を期す  
早稲田大学は模範国民の造就を本旨と為すを以て  
個性を尊重し 身家を発達し 国家社会を利済し  
併せて広く世界に活動す可き人格を養成せん事を期す

キャンパスマップ



早稲田大学組織図



## 環境への取り組み

早稲田大学と環境問題との関わりは、1890年代の足尾鉾毒事件に遡ります。この問題解決に早稲田大学関係者が大きな役割を果たしました。

1960年には、陸中海岸一帯の大火で失われた森林復興のため、商学部の教授だった故小田 泰市が学生と共に植林・育林活動を開始。

以来 数十年の間、活動が続いています。

1979年には私立大学としていち早く実験系廃棄物の適正処理のため環境保全センターを設立しました。これからも早稲田大学は、人間と地球の共存を目指し、環境保全活動に取り組みます。



## 環境マネジメントシステム

～WEMS（早稲田大学環境マネジメントシステム）～

早稲田大学では環境宣言を策定し、全学的に環境保全活動を推進しています。

### 環境マネジメントシステムの拡大

早稲田大学では2000年6月西早稲田キャンパス(現在の早稲田キャンパス)においてISO14001の認証を取得しました。

2000年度から2005年度まで環境マネジメントシステムを運用してきましたが、2006年7月より環境マネジメントシステムを刷新すると共に運用範囲を学校法人早稲田大学全体に拡大しました。

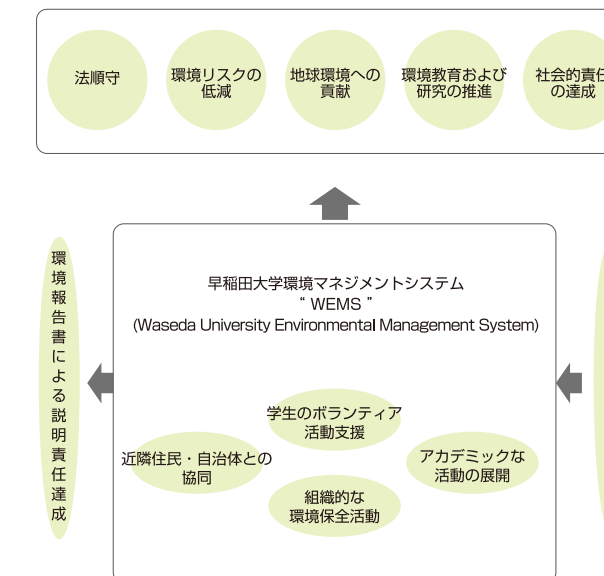
### 第三者認証について

2006年7月から運用している早稲田大学環境マネジメントシステム(Waseda University Environmental Management System: 略称WEMS: ダブリューイーエムエス)は第三者認証は取得していませんが、ISO14001規格に準じ作成しています。

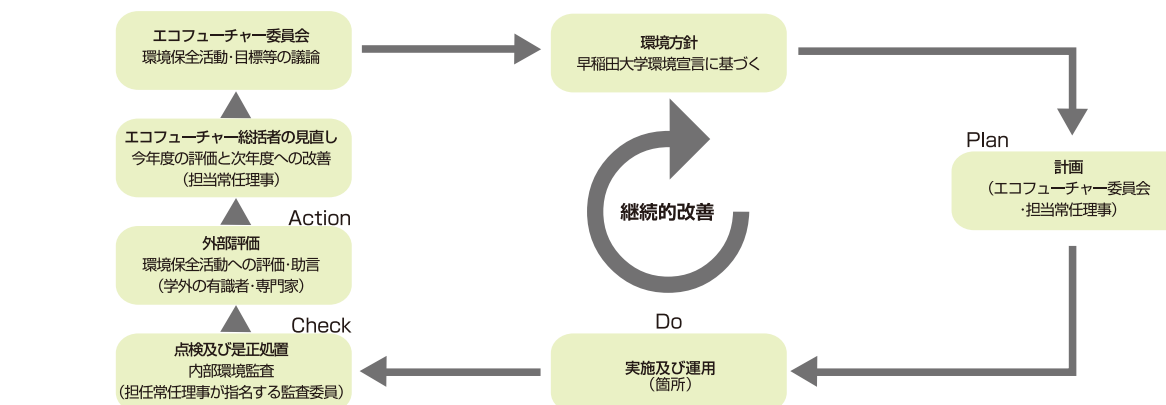
### 環境と安全衛生の一体的なマネジメントへ

今後WEMSにおいて、環境だけでなく安全衛生に関してのも一体的にマネジメントすることを目指しています。

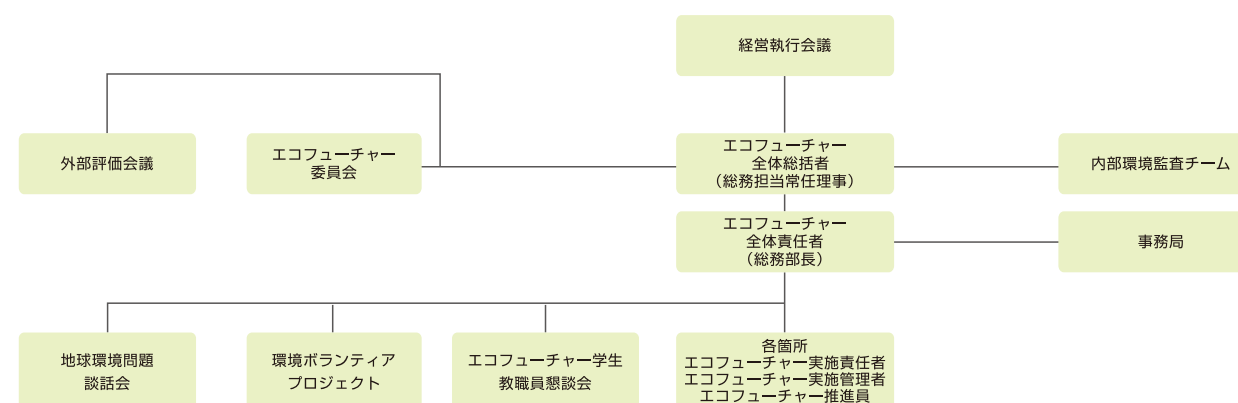
### Waseda Eco Future 早稲田大学の環境保全活動



### WEMSの流れ



### 実施体制



※地球環境問題談話会は現在休止しています

# 早稲田大学環境宣言

早稲田大学では環境宣言を策定し、全学的に環境保全活動を推進しています。

## 早稲田大学環境宣言

早稲田大学は、グローバルな視野とローカルな魂を持つ地球市民の育成と地球規模の課題に対する組織的な取り組みによる人類の未来への貢献という、21世紀にふさわしい大学づくりをめざしている。

そして、早稲田大学は、「地球環境の保全」という地球規模の課題に対し、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じて、社会の一員として先見性と積極的な姿勢をもって取り組む責務があることを認識する。

そこで、早稲田大学は、さまざまな局面において展開されている環境負荷の低減や循環型社会の実現に寄与する活動を統合して、環境マネジメントシステムを構築し、次の活動を積極的に推進する。

1. 早稲田大学は、地球環境の保全を課題とする教育、研究の推進を図り、人類に貢献する人材の育成および環境分野の研究の進展を期する。

2. 早稲田大学は、環境にかかわる教育、研究の成果を踏まえて、地域社会をはじめとするあらゆる人々に対する教育、啓発、普及活動を積極的に展開する。

3. 早稲田大学は、教育研究をはじめとするあらゆる活動が環境に及ぼす影響を常に認識し、地球環境に配慮した「エコ・キャンパス」の実現をめざして、継続的に改善を図るとともに、環境汚染の予防に努める。

4. 早稲田大学は、教育研究をはじめとするあらゆる活動において、環境に関連する法規、規制、協定、学内規定等を遵守する。
5. 早稲田大学は、教育研究をはじめとするあらゆる活動が環境に及ぼす影響を調査、分析し、環境目的および環境目標を定めてその実現を図り、定期的に見直しをする。

6. 早稲田大学は、教育研究をはじめとするあらゆる活動において、地球温暖化低減策の推進、グリーン購入の推進、エネルギー使用量の削減、廃棄物発生量の削減、資源のリサイクルの向上に努める。

7. 早稲田大学は、あらゆる人々に環境方針を公開し、「地球環境の保全」の取り組みに対して、理解と協力を求める。

8. 早稲田大学は、大学全体で環境マネジメントシステムを運用し、継続的な改善を図るとともに、学生、教職員および早稲田大学にかかわる人々にその全容を周知する。

1999年11月26日制定  
2006年 7月 1日第8項下線部を改訂  
学校法人 早稲田大学

# 2009年度環境目標

| 項目                                                 | 2009年度目標                                                                |
|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 重点目標                                               | 2009年度中に、温室効果ガス排出量抑制のための「ターゲット5000」（※）を補完強化した2010年度～2014年度までの中期計画（案）を策定 |
|                                                    | 2009年度は、省エネ法に基づき、床面積1㎡あたりのエネルギー使用量を前年比1％以上削減                            |
| 学生の環境保全活動への参加                                      | 省エネ推進組織の整備（より推進力のある大学全体組織の構築）                                           |
|                                                    | 「化学物質取扱いにおける環境保全・安全説明会」実施体制の改善                                          |
|                                                    | 環境ボランティア学校開催支援および環境関連企画の支援                                              |
|                                                    | エコフューチャー学生教職員懇談会を開催し、学生の意見聴取による環境保全活動への反映                               |
| 教職員への本学の環境保全活動の研修の推進                               | 環境教育の充実                                                                 |
|                                                    | 研修会・エコミーティング等の開催による環境保全意識の向上                                            |
| 安心・安全な学内環境の整備                                      | 吹き付けアスベスト撤去計画の最終年度（2008年度）から持ち越された6号館の残りの撤去作業の実施                        |
|                                                    | 新築・改修工事や新規什器の大量納入箇所のシックハウス対象物質の測定および指針値を超過した場合の対策実施                     |
|                                                    | 室内環境に影響を与える化学物質の測定に関する法令順守に向けた活動                                        |
|                                                    | PCBの適正管理および早期の処理                                                        |
| 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進、循環型社会への貢献                        | 分煙キャンパスの徹底                                                              |
|                                                    | 廃棄物発生量 2,114t/年以下                                                       |
|                                                    | リサイクル率 49.2％以上                                                          |
|                                                    | 薬品棚卸しの促進や薬品クリーンキャンペーンの実施等、化学物質の適正使用による保管量削減活動の実施                        |
| 温室効果ガス排出抑制、省エネルギー                                  | 廃棄物電子管理票（マニフェスト）の一部導入                                                   |
|                                                    | 化学物質の適正保管・管理                                                            |
|                                                    | （納品確認実施を含めた化学物質管理システムの運用開始および安全衛生巡回の実施）                                 |
|                                                    | 温室効果ガス排出量(CO <sub>2</sub> 換算) 42,997 t/年以下、建物床面積1㎡あたりの排出量：61.06kg以下     |
|                                                    | 電力使用量 88,774千kwh/年 (CO <sub>2</sub> 換算34,267 t/年) 以下                    |
|                                                    | ガス使用量 3,231千㎡/年 (CO <sub>2</sub> 換算7,356 t/年) 以下                        |
|                                                    | 重油使用量 507kℓ/年以下 (CO <sub>2</sub> 換算1,375 t/年) 以下                        |
|                                                    | 水の使用量 645千㎡/年                                                           |
| ※学校法人全体の温室効果ガスの排出量を2012年度までに2008年度から5,000 t 削減する計画 |                                                                         |

# 2008年度環境目標と達成状況

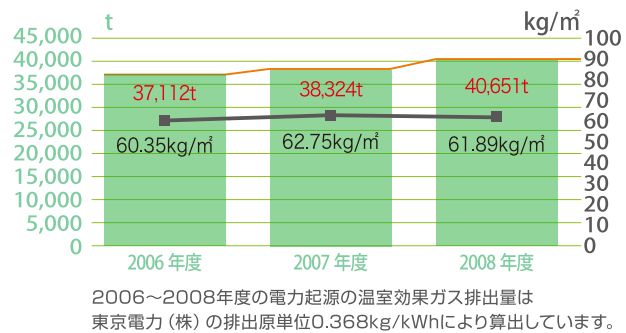
| 項目                          | 2008年度目標                                                      | 達成状況 |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------|------|
| 重点目標                        | 「フセダから止めよう!温暖化、ターゲット5000」（※）をキャッチフレーズとして、温室効果ガスの抑制を重点とする施策の推進 | △    |
| 学生の環境意識の向上と環境保全活動への参加       | 「化学物質取扱における環境保全・安全説明会」で大学の環境保全活動について前年度より多面的に理解を促す            | ○    |
|                             | シンポジウム等を開催する                                                  |      |
|                             | 前年度の活動を踏まえ、環境ボランティア学校の更なる展開を検討する。また、学生の環境関連企画の支援を行う           | ○    |
|                             | エコフューチャー学生教職員懇談会の開催とその他に学生が環境保全活動に関わることができる方策を実施              | ○    |
| 教職員の環境保全意識の向上               | 環境教育の充実(既存環境関連科目の認識を高める施策と環境関連科目の増設に向けた活動)                    | ○    |
|                             | 学生の環境意識向上のためのイベントを学生が主体となって企画、実施する                            | ○    |
|                             | 研修会・エコミーティング等を開催し、環境保全活動の定着と環境保全意識の更なる向上を図る                   | ○    |
|                             | 安心・安全な学内環境の整備                                                 |      |
| 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進、循環型社会への貢献 | 吹き付けアスベスト調査結果に基づく撤去計画(2005年度作成済)の実行・封じ込め状況の点検・空気測定            | △    |
|                             | 室内空気測定によるシックハウス対象物質量の監視・指針値を超過した場合の対策実施                       | ○    |
|                             | PCBの適正管理および早期の処理                                              | ○    |
|                             | 分煙キャンパスの徹底                                                    | △    |
| 地球温暖化物質排出抑制、省エネルギー等         | 廃棄物発生量 2,300t                                                 | ○    |
|                             | リサイクル率 50％                                                    | ×    |
|                             | 化学物質の適正使用による使用量削減施策効果の確認と次の施策の検討                              | ○    |
|                             | 化学物質の適正保管・管理                                                  | ○    |
|                             | 地球温暖化物質排出量(二酸化炭素換算) 39,711 t                                  | ×    |
|                             | 電力使用量84,494,155kwh (二酸化炭素換算31,094 t)                          | ×    |
|                             | ガス使用量2,833,088㎡ (二酸化炭素換算6,451 t)                              | ×    |
|                             | 重油使用量630kl (二酸化炭素換算1,707 t)                                   | ○    |
|                             | 水の使用量654,948㎡ (二酸化炭素換算459 t)                                  | ○    |
|                             | ヒートアイランド防止と生物多様性維持のため、新宿3キャンパスの被緑率計画の実施                       | ○    |

○：達成 △：一部未達成 ×：未達成  
※学校法人全体の温室効果ガスの排出量を2012年度までに2008年度から5,000 t 削減する計画

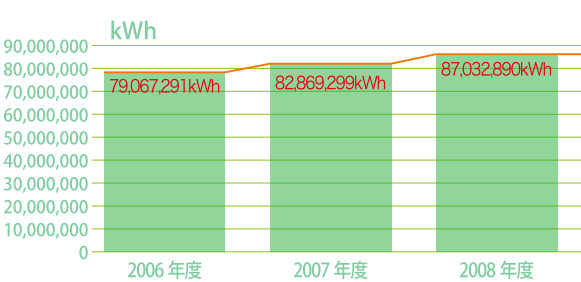
# 環境負荷データ

(2008年4月～2009年3月)

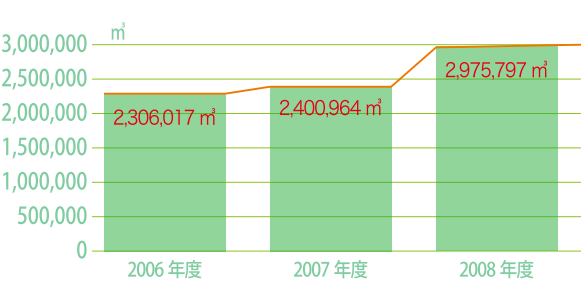
○温室効果ガス排出量〔CO<sub>2</sub>(t)換算〕と  
単位面積当たり温室効果ガス排出量(kg/m<sup>2</sup>)



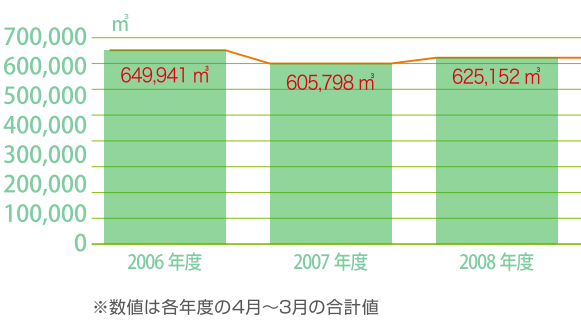
○電気 使用量



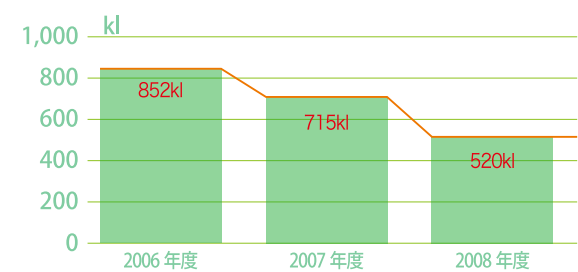
○ガス 使用量



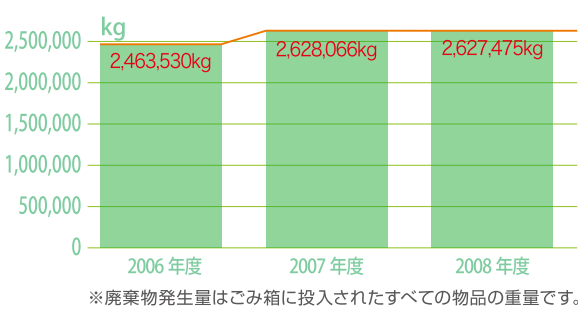
○水 使用量



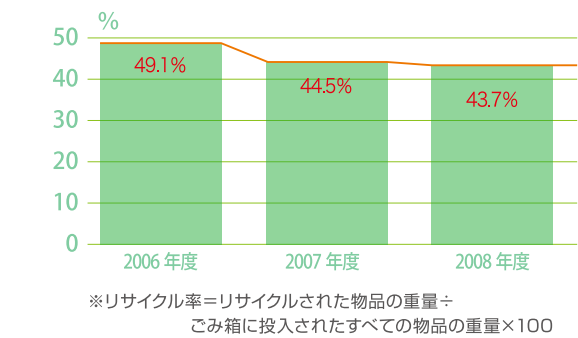
○重油 使用量



○廃棄物 発生量



○廃棄物 リサイクル率



○近年の早稲田大学の主な建物建設状況

|           |                                                             |
|-----------|-------------------------------------------------------------|
| 2005年2月～  | ・早稲田キャンパス8号館<br>・小野梓記念館                                     |
| 2006年3月～  | ・大隈記念タワー                                                    |
| 2008年4月～  | ・西早稲田(旧・大久保)キャンパス63号館<br>・東京女子医科大学・早稲田大学連携<br>先端生命医科学研究教育施設 |
| 2009年4月～  | ・早稲田キャンパス11号館                                               |
| 2009年10月～ | ・所沢キャンパス101号館                                               |

# 実験系廃棄物の管理状況

早稲田大学では研究・教育活動において多種多様な化学物質を使用します。それらの化学物質の中には人の健康や生態系に有害なものも多く、使用や廃棄にあたっては注意を要します。

当大学では、研究・教育活動に伴い発生する実験系廃棄物を、安全上の観点等から、無機系廃液を11区分、有機系廃液を8区分、その他固体廃棄物などを含め全28区分に細かく分別収集するよう指導しております。実験者の責任のもと定められた区分毎に収集された廃棄物は、内容物を記入した明細伝票と共に、環境保全センターに持ち込まれ(一部を除く)、分別内容と安全性が確認されたのち、学外の産業廃棄物処理業者に委託され適切な廃棄物処理が行われています。

廃棄物の委託先については、中間処理施設や最終処分場の実地確認なども行い、業者を選定しており、廃棄物の処理については、産業廃棄物管理票(マニフェスト伝票)により、適正な委託処理が行われていることを確認しております。

また、化学物質管理の一環として「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR制度※1)」により指定された化学物質のうち、年間取扱量が1トンを超えたものを国へ報告しております。2008年度はクロロホルム、塩化メチレン(ジクロロメタン)、トルエンの3物質が対象となりました。

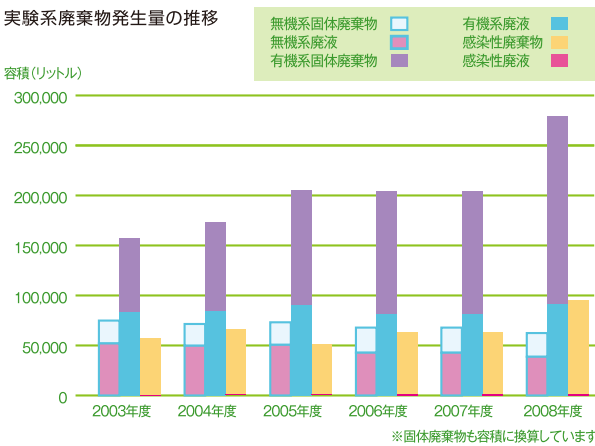
## 2008年度PRTR制度対象化学物質の届出 (学内では西早稲田キャンパスと先端生命医科学センター<sup>※2</sup>が該当しました)

<西早稲田キャンパス>

| 対象化学物質        | クロロホルム | 塩化メチレン | トルエン  |
|---------------|--------|--------|-------|
| 使用量(Kg)       | 7,700  | 4,300  | 1,300 |
| 大気への排出量(Kg)   | 700    | 1,100  | 320   |
| 下水道への移動量(Kg)  | 5.9    | 0.9    | 0     |
| 事業所外への移動量(Kg) | 7,000  | 3,200  | 980   |

<先端生命医科学センター>

| 対象化学物質        | クロロホルム |
|---------------|--------|
| 使用量(Kg)       | 1,000  |
| 大気への排出量(Kg)   | 230    |
| 下水道への移動量(Kg)  | 0      |
| 事業所外への移動量(Kg) | 770    |



※1 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 制度とは、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所(早稲田大学の場合キャンパス単位で管理)から大気・水域・土壌等の環境への排出量及び廃棄物に含まれての事業所外への移動量を事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計し、公表する制度です。この制度の対象となる化学物質は第一種化学物質として指定された354物質で、届出の対象となる事業者は第一種化学物質の年間取扱量が1トン以上の事業所を有するものと定められています。

※2 先端生命医科学センターは東京女子医科大学との共同施設であるため、早稲田大学と東京女子医科大学の連名で届出を行っています。

# 水質管理状況

～理工系実験排水の定期的水質分析～

科学技術に関する研究・教育を行っている施設(特定施設)から主に下水道へ流される排水について、環境保全センターでは毎月定期的に、重金属や揮発性有機化合物(VOC)などの31項目の分析調査を実施しています。これは、大学の教育研究活動に伴って発生する環境汚染を防止し、学生・教職員・周辺地域住民の生活環境を保全することを目的としています。

2009年度においては、対象となる7キャンパス、計18の採水箇所のうち、鉛およびジクロロメタンなどの濃度が基準をやや超える傾向を示した時期がありましたが、排水経路の洗浄および実験指導の改善によりその後良好な水質が維持されています。



# 環境関連授業

早稲田大学には22の大学院と13の学部があり、それぞれに環境に関する科目があります。科目名に「環境」と付くものだけでも400科目以上あります。そのうち、全学部の学生が履修可能なオープン教育科目からのみ、環境関連科目を抽出しました。各学部・大学院の科目は含まれていません。

## 環境関連科目一覧（抜粋）

| 科目                       | 学部等        |
|--------------------------|------------|
| 国際協力入門                   | オープン教育センター |
| 国際協力演習                   | //         |
| ボランティア論                  | //         |
| 環境とボランティア                | //         |
| 持続可能な社会と市民の役割            | //         |
| 東南アジアの開発問題とNGOの役割        | //         |
| 国際交流と社会貢献                | //         |
| 農山村体験実習                  | //         |
| 海への誘い                    | //         |
| エネルギーと地球環境の<br>国家戦略とビジネス | //         |
| 環境都市づくりの理論               | //         |
| 環境都市のシステムデザイン            | //         |
| 環境を経営する                  | //         |
| 環境科学基礎講座                 | //         |
| 環境問題と持続可能な社会             | //         |
| 現代環境論                    | //         |
| 環境関連施設見学実習               | //         |
| やさしい「環境とエネルギー」           | //         |
| 環境・エネルギー工学の最前線           | //         |
| 環境 이슈を深く読み解く             | //         |
| 環境 이슈を再編集する              | //         |
| 早稲田キャンパスにおける生物と環境を探索     | //         |
| 実験と映像で探る自然               | //         |
| 環境とアート                   | //         |

環境を主に取り扱っている大学院・学部は環境・エネルギー研究科ですが、それ以外にも、政治経済学部・法学部・教育学部・創造理工学部・人間科学部・公共経営研究科などで、環境に関連した内容を学ぶことができます。

| 科目                                      | 学部等                          |
|-----------------------------------------|------------------------------|
| 都市環境の法と政策                               | オープン教育センター                   |
| いま、自然科学を読む-時代の問題群を追う                    | //                           |
| いま、自然科学を読む-身近な解決策を探る                    | //                           |
| 地球からの贈り物、<br>宝石と鉱物の魅力を探る<br>(基礎編) (応用編) | //                           |
| 地球の起源                                   | 教育学部<br>提供オープン科目             |
| 地球システムと環境問題                             | //                           |
| 地球環境の変遷と生物の絶滅                           | //                           |
| 地球の科学                                   | //                           |
| 環境政策と計画                                 | 基幹・創造<br>・先進理工学部<br>提供オープン科目 |
| 現代環境論                                   | //                           |
| 環境倫理                                    | //                           |
| 環境基礎工学                                  | 創造理工学部<br>提供オープン科目           |
| 環境法Ⅰ・Ⅱ                                  | 社会科学部<br>提供オープン科目            |
| 環境計画実習Ⅰ・Ⅱ                               | //                           |
| 環境情報科学                                  | 人間科学部<br>提供オープン科目            |
| 地球環境システム論                               | //                           |
| 環境民俗学                                   | //                           |
| 環境社会学                                   | //                           |

# 環境関連教員・研究

環境に関わりの深い研究を行っている教員のリスト(2009年7月現在)ですが、これ以外にも環境問題に取り組んでいる研究者がおります。

## 環境関連教員・研究一覧（抜粋）

| 教員名    | 専門分野・主な研究課題                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------|
| 赤尾 健一  | 経済理論、林学                                                                   |
| 天野 正博  | 地球温暖化と森林の役割                                                               |
| 池田 清彦  | 生物多様性、環境問題に<br>対処するための新システムの研究                                            |
| 太田 俊二  | 地球温暖化、環境動態変化、森林                                                           |
| 大塚 直   | 民法、環境法                                                                    |
| 大野 高裕  | 北九州市エコマナー導入による<br>環境配慮行動促進システムに関する研究、<br>自動回収機 (RVM) を用いた<br>リサイクルシステムの開発 |
| 大和田 秀二 | リサイクル工学、地球・資源システム工学                                                       |
| 小川 誠   | 岩石・鉱物・鉱床学、環境浄化材料の設計                                                       |
| 小野田 弘士 | 静脈施設の安全・安心に関する包括的研究、<br>溶融飛灰山元還元システム構築に<br>関する包括的研究                       |
| 勝田 正文  | 燃料電池、資源環境問題に調和した<br>熱・エネルギーシステム                                           |
| 紙屋 雄史  | 環境調和型電動車両の試作と評価                                                           |
| 北山 雅昭  | 民事法学・環境法                                                                  |
| 草鹿 仁   | 内燃機関、エンジンシステム、燃料電池、熱工学                                                    |
| 久保 純子  | 自然地理学、地形学、第四紀学、<br>メコン川下流 (カンボジア) の地形と<br>洪水災害に関する研究                      |
| 小林 麻理  | 環境会計                                                                      |
| 黒川 哲志  | 環境保全、環境法                                                                  |
| 榊原 豊   | 水環境工学、水質工学、環境修復                                                           |
| 杉山 雅洋  | 交通経済学、交通政策                                                                |
| 首藤 重幸  | 環境法における市民参加、環境行政                                                          |
| 関谷 弘志  | 各種燃料に対応した外燃機関、<br>次世代分散発電システムおよびコージェネシステム                                 |
| 早田 宰   | 都市計画、都市再生、居住環境整備計画                                                        |
| 大聖 泰弘  | 自動車の環境技術、<br>自動車交通と環境・エネルギー問題                                             |
| 高田 祥三  | ライフサイクルマネジメント                                                             |
|        |                                                                           |

| 教員名    | 専門分野・主な研究課題                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 田邊 新一  | 室内環境、環境共生建築                                                                                           |
| 田村 正勝  | 温暖化対策-排出権取引・森林保全・稲作、<br>地球温暖化対策、環境権と自然哲学                                                              |
| 常田 聡   | 生活廃水の生物処理、<br>生物膜内の微生物生態系の解明                                                                          |
| 坪郷 實   | 環境政策                                                                                                  |
| 寺島 信義  | 環境情報学                                                                                                 |
| 友成 真一  | エネルギー政策、地球環境政策、<br>地域経営、行政経営                                                                          |
| 中垣 隆雄  | ガスタービンと炭化水素燃料の水蒸気改質反応を<br>組み合わせた化学再生発電システム、<br>ジエチルエーテルやメタノールなどによる<br>中低温廃熱の化学的エクセルギー再生、<br>二酸化炭素分離回収 |
| 長沢 伸也  | 環境影響評価、環境政策、感性工学                                                                                      |
| 永田 勝也  | エネルギー環境工学、リサイクル工学                                                                                     |
| 中村 慎一郎 | 経済理論、計量経済学、廃棄物経済学                                                                                     |
| 名古屋 俊士 | 環境安全工学、作業環境工学、大気環境工学<br>地球温暖化対策技術開発、                                                                  |
| 納富 信   | 廃棄物処理における<br>環境負荷低減技術開発および評価                                                                          |
| 堀口 健治  | 農業経済学、農政、土地政策                                                                                         |
| 御子柴 善之 | 環境倫理学                                                                                                 |
| 村山 武彦  | 環境影響評価、社会システム工学、環境保全、<br>社会工学、リスク管理論                                                                  |
| 森川 靖   | 森林の保全、森林の二酸化炭素吸収と温暖化                                                                                  |
| 横山 隆一  | 環境親和性を念頭においた大規模<br>エネルギーシステムの計画、運用、制御、<br>管理及びシミュレーション解析                                              |
| 吉田 徳久  | 地球環境保全、循環型社会形成、<br>環境汚染防止、化学物質管理、<br>環境アセスメント等幅広い環境政策分野における<br>科学的論理と手法及び<br>その有効性の検証に関する研究           |
| 寄本 勝美  | 廃棄物行政、リサイクル社会、環境行政                                                                                    |

## 学生の環境ボランティア活動

2002年に本学における社会貢献活動の推進役として設立された平山郁夫記念ボランティアセンター（通称WAVOC）には、現在、30を超えるボランティアプロジェクト(学生が運営主体)があります。その中で、環境分野のプロジェクトも9つを数え、そのフィールドは高尾の森から、タンザニアの村落部まで、世界中に広がっています。環境ボランティア学校もそのひとつです。

環境ボランティア学校は「入学は環境ボランティアに興味があった日、やりたいことがみつけれたら卒業」を基本コンセプトに2003年に始動しました。

「環境によりことやみんなのためになることをしたい」という熱意が結実した企画はこれまでに約50回を数えます。

「なんとなくボランティア活動は敷居が高い」と感じている学生に向けて、参加しやすいテーマを設定し、活動しています。学生が環境問題に興味を持ち、自主的に学び、調べ、活動していくためのきっかけとなるよう、今後も活動していきます。

■平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)  
<http://www.waseda.jp/wavoc/>



農山村体験実習



ケニア社会林業プロジェクト

### 環境ボランティア学校2008-09年度の活動

#### <2008年度>

- 4月 気象キャスターボランティアによる環境教育から学ぶ～ in リスーピア
- 6月 気象キャスターボランティアによる環境教育から学ぶ～ in エコライフ・フェア
- 6月 栃木県益子町「環境による町おこし」視察、棚田の保全活動・体験農業等
- 6月 鹿島神宮（奉納・神事見学、神宮内の散策等）
- 7月 気象キャスターと有機農家の自然体験型環境講座
- 7月 講演会 「環境のしごと」探検  
～環境プロデューサーと訪ねる環境のしごとあれこれ～
- 7月 東京ガスどんぐりスクール  
東京ガスの環境教育の現場を見てみよう
- 7月 ファシリテーション・グラフィックを体験しよう  
～環境まちづくりの実践へ向けて～
- 8月 北海道富良野市（北海道 富良野自然塾 体験ツアー）
- 10月 栃木県益子町での棚田の保全活動・体験農業、  
早大ホームカミングデー出店の支援
- 11月 山梨県富士吉田市での「柿取り隊会」～サルと共存するために、柿を取る～
- 11月 農と食と緑の学校 IN おけら牧場・ラーバンラバンの森～里山復活と果樹園作りのフィールドワークを通して～
- 2月 宿毛の森交流 始動  
（梓立祭手伝い、森林ボランティア、学生会との交流等）
- 2月 日産自動車共同プロジェクト  
「2010年 電気自動車のある生活」

#### <2009年度>

- 5月 栃木県益子町（棚田の田植え・里山の保全活動等）
- 6月 気象キャスターボランティアによる環境教育から学ぶ～ in エコライフ・フェア
- 6月 バックの肉はこうして作られる：品川食肉市場見学
- 9月 北海道富良野市（北海道 富良野自然塾 体験ツアー）
- 10月 栃木県益子町での里山の保全活動・縄つみ等、  
早大ホームカミングデー出店の支援
- 3月 宿毛の森交流（梓立祭手伝い、地元小中学生・高校生との交流等）



清掃活動  
高田馬場駅前

商店街のみならず、地域住民のみなさま、新宿区役所の方々、本学学生、教職員がほぼ毎月清掃活動をしています。

## 国際交流を通じて環境問題を学ぶ

早稲田大学には約3,200人の外国人学生を含む57,000人の学生が学んでおります。国際コミュニティセンターは外国人学生と日本人学生の交流及び異文化理解の促進を目的としており、さまざまなプログラムを展開しています。その中で環境に関連するものをご紹介します。

「お掃除プロジェクト」は、高田馬場周辺商店街や新宿区役所の方々と共に、高田馬場駅周辺の路上を清掃する地域と連携したプロジェクトです。地域の皆さんと触れ合いながら、月に1度の清掃活動を行っています。早稲田大学では、一人でも多くの学生がこのような活動の中で得た知識と経験を活かし、活躍してくれることを期待しています。

■国際コミュニティセンター(ICC)  
<http://www.waseda-icc.jp/>

## 地域と共に

早稲田大学を初めて訪れた方は、大学が街と渾然一体となっている様子に驚かれます。そんな早稲田界隈の雰囲気は長い歴史の中で培われてきました。

学生は喫茶店や食堂で仲間たちと語り合い、店の人たちは、そんな学生を時には見守り、時には教え導いてくれます。早稲田の街全体が教室ともいえるでしょう。

早稲田キャンパスで開催される地球感謝祭は、商店街が主催する環境や防災をテーマとしたイベントです。

青空古本掘り出し市は高田馬場・早稲田周辺の古書店が早稲田大学のキャンパス内で開く古本市で、学生はもちろん近隣の方や古本好きな方の楽しみとなっています。

地域通貨であるアトム通貨は早稲田大学の学生ボランティアが商店街のみなさまと共に作り上げてきたもので、環境に配慮した活動などをすると「馬力」という紙幣がもらえ、それは協力店で使うことができます。

また、新宿区で環境保全活動を行っている企業等の情報交換の場である「エコ事業者連絡会」に早稲田大学は積極的に参加しています。

早稲田大学と住民のみなさまと行政の方々と、環境保全活動の輪はどんどん広がっています。



共に、地球感謝祭から



## キャンパスと自然

所沢キャンパスは、首都圏でも有数の自然環境に恵まれた狭小丘陵の一角にあります。この豊かな自然環境を生かしながらキャンパスを作るため、1987年に自然環境調査室を設置しました。設置以来、キャンパスの自然環境保全のために活動しています。

また、1998年には「人間科学部環境保全基本構想」を策定し、所沢キャンパスでのごみの分別・再生紙の利用・太陽光の利用・残飯の堆肥化・紙コップの利用推進など、総合的な環境保全の推進を行っています。

本庄キャンパスにおいても、豊かな自然の中、環境・資源エネルギー研究科で環境関連の研究を行い、大学の知的資産が地域のみなさまのお役に立てるような試みをしています。

高等学院の緑は杉並区の保護樹林に指定されています。

新宿区にある早稲田・戸山・西早稲田の3キャンパスでは、建物の建て替え工事の際には、今ある緑を別の場所に移し、建物ができた時に元に戻すといった取り組みを行い、都心では少なくなりつつある豊かな緑を維持し、学生・教職員だけでなく近隣のみなさまの憩いの場となっています。大隈講堂前のヒマラヤスギは新宿区によるみどりの新宿30選に指定されています。近年では建物の屋上緑化・壁面緑化を積極的に行っています。

■自然環境調査室  
<http://www.nature.waseda.ac.jp/>



所沢キャンパスの湿地保全



上・101号館でも屋上緑化を実施  
下・2009年7月に竣工した101号館（所沢キャンパス）

# 環境に関するコミュニケーション

## お問い合わせ・苦情

2009年度に寄せられた学内外の方からのお問い合わせ、苦情等は以下のとおりです。

| 種別    | 件数 | 主な内容と対応                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問い合わせ | 7  | ・早稲田大学の廃棄物の分別について→資料等により説明<br>・早稲田大学環境マネジメントシステム (WEMS) について→資料等により説明                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                      |
| 苦情    | 8  | ○学内者<br>【喫煙関係】<br>①所定の屋外喫煙所以外での喫煙やタバコの吸殻のポイ捨てなどの喫煙マナーについて。<br>②キャンパス内分煙化の徹底について。<br>③キャンパス内喫煙所の配置について。<br>→教職員による喫煙巡回の実施・指導の徹底、喫煙所配置の見直しと喫煙マナーに関する掲示物を貼付。また、全学共通講義などを設置し、喫煙が及ぼす健康被害、受動喫煙防止などに関する教育プログラムを実施。 | ○学外者<br>【喫煙関係】<br>①キャンパス内の屋外喫煙所から風向きにより外に煙が流れてくることなどについて。<br>→歩道に面した喫煙所については、設置場所を歩道からなるべく離すと同時に、喫煙所に喫煙マナーに関する掲示を貼付。また、教職員による喫煙巡回の実施・指導の徹底など。<br><br>②タバコの吸殻などのポイ捨てについて。<br>→マナー徹底に関する看板 (日本語、英語併記) や掲示の設置。また、教職員による喫煙巡回の実施・指導の徹底など。 |

# 着実に改善

早稲田大学の環境保全活動をより良いものにするため、早稲田大学環境マネジメントシステム(WEMS)には様々な方からご意見をいただく仕組みがあります。

外部評価会議 (環境に関する専門的な知識をお持ちの学外の方からご意見をいただく場)、エコフューチャー学生教職員懇談会 (学生・教職員) で2009年度にいただいた主なご意見とその改善の状況は次のとおりです。

## 教育・研究に関する事項

| ご意見                     | 対応                                                     |
|-------------------------|--------------------------------------------------------|
| 環境保全に貢献している研究成果の学内外への公表 | 「環境安全報告書」、ホームページ、各種学内広報紙に掲載するなど、学内外への情報提供の機会を増やしていきます。 |

## 環境保全活動に関する事項

| ご意見                                 | 対応                                                                            |
|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 環境に対する意識の低い学生の意識向上を図るべき。            | 毎年定期的に早稲田ウィークリーなどに環境特集記事を掲載し、学生の意識啓発に努めます。                                    |
| 環境保全活動の成果が見える仕組みづくりが必要。             | 省エネ活動に対する省エネ効果を数値化して示すなど取り組みやすい環境情報の周知を積極的に行います。                              |
| 新宿区の路上全面禁煙に伴い、早稲田大学でも大学らしい意識啓発をすべき。 | キャンパス内分煙化の徹底活動だけでなく、路上喫煙についても早稲田ウィークリーなどで定期的に広報し、喫煙マナーの徹底、喫煙者の減少へ向けた施策を検討します。 |

# 環境保全活動の歩み

| 年度     | 取 り 組 み                                         |
|--------|-------------------------------------------------|
| 1979   | 環境保全センターを設置                                     |
| 1992   | 廃棄物問題検討委員会の設置                                   |
| 1996   | 財政改革推進本部の設置                                     |
| 1997   | 地球環境問題懇話会の発足(1999年度まで15回を開催)                    |
| 1998   | 人間科学部「人間科学部環境保全基本構想」の発表                         |
| 1998   | エコ・キャンパス推進本部の設置と東京都との協働                         |
| 1999   | 環境問題連続講演会の開催 (環境月間)                             |
| 2000   | 西早稲田キャンパス(現在の早稲田キャンパス)でISO14001認証取得             |
| 2002   | 環境総合研究センターを新設                                   |
| 2003   | ボランティアセンターに「環境ボランティア学校」開設                       |
| 2003   | 西早稲田キャンパス(現在の早稲田キャンパス)でISO14001認証更新             |
| 2003   | 総務部に環境安全管理課を新設                                  |
| 2005   | 理工学研究科環境・エネルギー専攻開設                              |
| 2005   | ワンガリ・マータイ氏に名誉博士号を贈呈                             |
| 2006   | 早稲田大学環境マネジメントシステム(WEMS)を全学に展開<br>環境・エネルギー研究科を開設 |
| 2007   | アスベスト対策の実施                                      |
| 2007   | 気象キャスターボランティアによる環境教育から学ぶ～in リスービア               |
| 2008.4 | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                 |
| 2008.5 | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                 |
| 2008.6 | 気象キャスターボランティアによる環境教育から学ぶ～in エコライフ・フェア           |
| 2008.6 | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                 |
| 2008.6 | 栃木県益子町「環境による町おこし」視察、<br>棚田の保全活動・体験農業等           |
| 2008.6 | 鹿島神宮 (奉納・神事見学、神宮内の散策等)                          |
| 2008.7 | 気象キャスターと有機農家の自然体験型環境講座                          |
| 2008.7 | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                 |
| 2008.7 | 講演会 「環境のしごと」探検<br>～環境プロデューサーと訪ねる環境のしごとあれこれ～     |
| 2008.7 | 早稲田から止めよう温暖化<br>学生キックオフイベント 「環境Fes」開催           |
| 2008.7 | 三浦雄一郎さん講演会開催                                    |
| 2008.7 | 東京ガスどんぐりスクール<br>東京ガスの環境教育の現場を見てみよう              |

| 年度      | 取 り 組 み                                                       |
|---------|---------------------------------------------------------------|
| 2008.7  | 打ち水大作戦 in 早稲田大学                                               |
| 2008.7  | (株)プリヂェストンとの産学連携プロジェクトスタート                                    |
| 2008.7  | ファシリテーション・グラフィックを体験しよう～環境まちづくりの実践へ向けて                         |
| 2008.8  | 北海道富良野市 (北海道富良野自然塾 体験ツアー)                                     |
| 2008.8  | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2008.10 | 栃木県益子町での棚田の保全活動・体験農業、<br>早大ホームカミングデー出店の支援                     |
| 2008.10 | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2008.11 | 山梨県富士吉田市での「柿取り隊会」<br>～サルと共存するために、柿を取る～                        |
| 2008.11 | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2008.11 | 農と食と緑の学校 IN おけら牧場・ラーバンの森<br>～里山復活と果樹園作りのフィールドワークを通して～         |
| 2008.12 | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2009.2  | 宿毛の森交流 始動<br>(梓立祭手伝い、森林ボランティア、梓会との交流等)                        |
| 2009.2  | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2009.2  | 日産自動車共同プロジェクト<br>「2010年 電気自動車のある生活」                           |
| 2009.3  | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2009.5  | 栃木県益子町 (棚田の田植え・里山の保全活動等)                                      |
| 2009.5  | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2009.6  | 気象キャスターボランティアによる環境教育から学ぶ～in エコライフ・フェア                         |
| 2009.6  | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2009.6  | バックの肉はこうして作られる：品川食肉市場見学                                       |
| 2009.7  | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2009.7  | 打ち水大作戦 in 早稲田大学                                               |
| 2009.9  | 北海道富良野市 (北海道富良野自然塾 体験ツアー)                                     |
| 2009.10 | 「お笑い健康トークライブ (喫煙対策)」開催<br>(早稲田大学・新宿区共催、㈱よしもとクリエイティブエージェンシー協力) |
| 2009.10 | 高田馬場お掃除プロジェクト実施                                               |
| 2009.10 | 栃木県益子町での里山の保全活動・綿つみ等、<br>早大ホームカミングデー出店の支援                     |

# 学生の環境保全活動

## 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）公認プロジェクト:アトム通貨

### ◇アトム通貨とは

2004年4月7日「鉄腕アトム誕生1周年」の日にスタートした地域通貨、エコマネーです。「未来の子どものために」をテーマに「地球環境にやさしい社会」「地域社会にやさしい社会」「国際協力に積極的な社会」の3つの理念を柱とし、さまざまな社会貢献活動の支援を目的としています。具体的には地域の商店街、NPO法人、町会、行政などと連携し、様々な環境に関する活動を行っています。このアトム通貨の運営やイベント企画に学生が参画し、主体的に活動を行っています。



### ◇地域でのエコ活動の促進

アトム通貨は、地域に約180の加盟店があります。この加盟店では様々なエコに関するプロジェクトが展開されています。マイハシプロジェクトや地産地消メニュープロジェクト、ハンガリーサイクル等々です。地域の地道なエコ活動を促進するツールとしてアトム通貨が活用されています。加盟店プロジェクトの他、定期的に地域清掃や、地域のイベントにアトム通貨を使って頂いたり、運営するわたしたち学生事務局スタッフ



アトム通貨看板

も、まちに出て行き一緒にエコ活動を行っています。このような、加盟店プロジェクトや地域のイベントにアトム通貨が活用され地域の人々に愛されることで地域に元気を与え、地球環境に優しいまちが形成されていきます。

## ecoforus(エコフォーラス)

### ■ecoforusとは

私たちecoforusは、①環境団体同士のネットワークの構築と②学内学生へ向けて「環境問題とはつまり、どういことなのだろうか」がわかるような情報の発信に活動の軸を置いた学生団体です。

環境問題を解決するためには「何となくいいことをしている気がする」ではなく、「本当に効果があるだろうか」を考えて合理的な思考に基づいて活動する必要があります。そこで2007年に結成されたecoforusは「合理的な環境活動を活性化させる」という理念を掲げ、学内での環境問題に対する意識が向上するよう活動しています。



企業訪問

### ◇大学生への環境意識の啓発

2009年7月7日、大学生への環境意識の啓発のために、「早稲田打ち水大作戦2009」を開催しました。当日は、早稲田大学キャンパス内の一画を使い、他の学生団体やパフォーマンス団体と協力しながら楽しみながらエコを実践してもらいました。今年も様々な団体と協力しながら学生のエコの気持ちを育てるべく、わたしたち学生からエコに関するイベントをアトム通貨を通じて発信していきたいと考えています。

Web: <http://atom-community.jp/>



打ち水大作戦

### ■フリーペーパーの制作や地球感謝祭等への参加

通常の活動の流れとしては、毎週1回勉強会と全体ミーティングを行い、企画ごとに構成される各チームが週2～3回のチームミーティングを行います。企画は常にあるものとしてフリーペーパーの制作、単発のものでは地球感謝祭やグローバルサミット、環境ビジネスコンテスト、広告コンペなどに参加・企画しました。その他に企業訪問や他団体のミーティングや企画への参加が常にあるためメンバーは各自が担当する企画のために常に活動しています。メンバーの精力的な活動により、今年も手ごたえを感じつつ目標に向かって前進することができました。



ミーティング風景

# 環境関連研究クローズアップ

## “ヒト”と“地球”にやさしい電動バスの開発

### 早稲田大学大学院

#### 環境・エネルギー研究科 紙屋雄史教授

近年、自動車の分野においてもいわゆる環境・エネルギー問題が大きな話題となっており、研究者には従来の内燃機関自動車の性能改善や、代替自動車の開発等が求められています。そのような背景のもと、紙屋研究室では後者に係わる研究を進めています。ここでは、現在進行中のプロジェクトの中から、先進電動マイクロバスの研究につ

いて紹介しましょう。

我々のグループが開発する電動バスは、WEB:Waseda advanced Electric micro Busと名づけられています。WEBは、電気自動車の実用化において最も高い技術ハードルとなっている“大きく・重たく・高コスト”な“バッテリー”の搭載量を意識的に減らし、そしてバスターミナルに戻って来る度に毎回急速充電を行なうという“短距離走行・高頻度充電コンセプト”を採用したユニークな電動バスです。大きなバス車両であるにもかかわらず、搭載

バッテリーは軽自動車レベルのもので済んでいます。これにより、車両重量低減と車両初期コスト削減に成功しました。

しかし、“短距離走行・高頻度充電コンセプト”を電動バスに採用するには、バスターミナルでの充電を、運転手へ負担をかけずに“短時間・安全・手間いらず”で行う必要があります。我々は、これを実現するための手段として、運転席からのボタン操作のみで充電を可能とする“非接触急速誘導充電装置”を独自に開発しました。開発機器の充

電効率も、電動車両用としては世界最高の“92%”を記録しています(図1)。

これらの先進的技術を導入することで、WEBは優れた環境性能を得ることに成功しました(図2)。実測結果より、WEBは“ヒト”と“地球”に優しい車両であることが証明されています。また、我々研究グループは、電動バスの素晴らしさを一般市民に知ってもらうことを目的とした“公道実証試験”にも力を入れています(図3)。

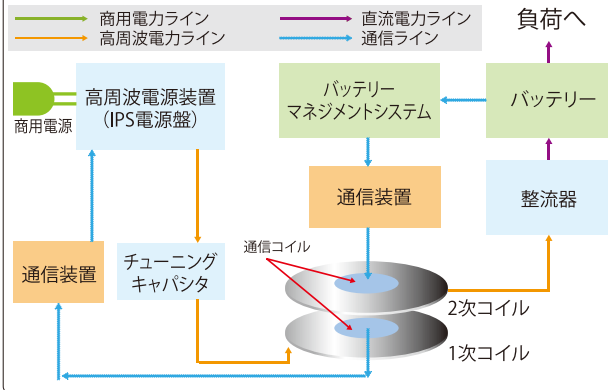
※図1: 電動車両用非接触充電装置



### 特長と原理

電動車両非接触充電装置は、地面に設置した送電部に運転手が車両を停止させた後、運転席からのボタン操作のみで充電作業を行うことのできるノンプラグインタイプのシステムである。ストレスが無く“安全”、“短時間”、“手間いらず”で充電作業が完了する。電磁誘導の原理(※)に基づいて送電部(1次コイル)・受電部(2次コイル)間で20kHz級の高周波非接触送電が行われる。 ※コイルを貫く磁束が変化すると電圧が生じる現象。

### システム構成



※図3: WEBの公道実証試験(奈良県での例)



出発式

※図2: WEBの車両諸元と車両性能



## Waseda advansed Electric micro Bus

### 車両諸元

ベース車両:日野自動車“Poncho”  
車両重量:3065kg 車両寸法:L 5.77×W1.995×H2.83m  
乗車定員:13名 モーター:PM同期モーター 50kW  
メインバッテリー:ゼブラ 21.2kWh サブバッテリー:リチウムイオン 1.1kWh

### 車両性能(ベースディーゼル車両との比較)

#### ① 温室効果ガス排出量削減効果

・電気エネルギーへのシフト&総合効率向上による改善割合  
68%:大型車試験モード(M15)走行時比較

#### ② 乗車環境改善効果

・変速機が不要となることによる前後方向加速度変化の改善割合  
31%: M15平均ジャーク値(m/s<sup>3</sup>)比較  
・モータ駆動化による車内振動改善割合  
30%: M15平均振動加速度値(m/s<sup>2</sup>)比較(JIS7760による)  
・モータ駆動化による車内騒音改善割合 15%: M15平均騒音値(dB)比較

#### ③ 周囲環境負荷低減効果

・モータ駆動化による車外騒音改善割合 (騒音規制法許容限度との比較)  
18%: M15平均騒音値(dB)比較



乗車待ちの列



修学旅行生をかきわけ走行

# 企業との共同研究

## 地球環境のための「架け橋」を目指して ～株式会社ブリヂストンとの産学連携研究プロジェクト 「W-BRIDGE」

早稲田大学と株式会社ブリヂストンが連携して進める「W-BRIDGE」は、環境問題という人類共通の課題に対し、環境NPOや市民団体といった地域の生活者の方々、早稲田大学をはじめとする学生の皆さんに参画いただき、三者一体で研究・活動を行える枠組みを提供するプロジェクトです。

W-BRIDGEは、従来の産学連携の枠を超えて大学・企業・生活者の三者一体となった取り組みによって「環境活動モデル」を設計、実施、発展させていきます。多様な環境活動モデルの中から優れた活動モデルを見出しバックアップし、社会普及を図ることがW-BRIDGEの重要なミッションの一つです。

2008年7月のスタート以来、のべ22件のプロジェクトを支援してきました。世界的な業績を上げた研究者や著名なNPO活動者から、それぞれの地域で生活と環境を守っているみなさん、未来への希望に満ちた学生まで一緒に手を携えて行動をしています。ちょっと照れくさいですが、地球とみんなの「しあわせ」を目指して。全体のプロジェクトは、地球温暖化対策と生物多様性保全のバランス、人々の生活と環境

保全活動のバランス、次世代からの視点による効果的で効率的な環境改善手法、環境に関する情報を世界へ効果的に発信・コミュニケーションする手法をそれぞれ考える4つの領域から成り立っています。また、関連する学問・研究分野は、生態学・理学・工学・経済学・法学・政治学・経営学・政治学・心理学・教育学・社会学・農学・林学・地域研究・ジャーナリズム論など多くの分野に広がっています。

2009年11月28日に、大隈小講堂で行われた1周年記念シンポジウムでは、世界的な地球温暖化研究の中心的存在であるIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の最前線に立つ、西岡秀三先生、三村信男先生に地球環境問題の最新のトピックスと地域における活動の重要性についてお話しいただいています。W-BRIDGEの最大の特徴は、ブリヂストンの関係者、大学の教員、NPO・NGO専門家、地域の環境活動のリーダー、環境関連企業の経営者、ジャーナリスト、早稲田大学内外の学生、行政職員などが様々な立場から参加し、研究会、懇親会など各種のイベントを繰り広げているところです。くわしくは、ホームページ [www.w-bridge.jp](http://www.w-bridge.jp) をご覧ください。



W-BRIDGEプロジェクト 2009年度報告書  
(学生のみなさんが編集、デザイン担当)



「エコプロダクツ2009」W-BRIDGEブース  
(東京ビッグサイト)



バイオ燃料用植林現場での調査（マレーシア）



農業の実践



全国学生環境ビジネスコンテスト2009



ボルネオプロジェクト 現地の子供たちと

W-BRIDGEでは、2009年4月20日から6月1日までの期間、ブリヂストンが定めた研究領域に基づいて、大学と一般の方々（環境NGO、市民団体等）が連携して取り組む研究・活動課題を募集しました。応募された案件の中から、W-BRIDGEに設置された助成審査委員会およびW-BRIDGEの運営委員会が厳正なる選考を行い、12件の委託先を採択しました。委託期間は2009年7月1日から2010年6月30日までです。

## プロジェクト紹介 Projects

|    | 研究・活動代表者                                                                                | 団体名                                                                                   | 研究課題                                                                                  | 備考 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1  | 早稲田大学<br>人間科学学術院<br>教授 森川 靖                                                             | 財団法人<br>国際緑化推進センター<br>顧問・主任研究員 大角泰夫                                                   | 荒地地の緑化によるCO2吸収とバイオ燃料<br>生産の実証的研究                                                      |    |
| 2  | World Agroforestry Centre<br>(ICRAF、国際機関)<br>Dennis P. Garrity, PhD<br>Director General | Komunitas Konservasi Indonesia<br>- WARS<br>Mr. Hidayat Rakhmat<br>Executive Director | Eco-certified Natural Rubber from<br>Sustainable Agroforests in Sumatra,<br>Indonesia |    |
| 3  | 慶應義塾大学大学院 政策メディア<br>研究科 教授 金谷年展<br>岩手大学農学部<br>助教 伊藤幸男（共同研究代表）                           | 特定非営利活動法人<br>バイオマス産業社会ネットワーク<br>理事長 泊 みゆき                                             | 地球温暖化対策を念頭においた総合的な森<br>林利用の方向性を探る研究                                                   |    |
| 4  | 茨城大学<br>地球変動適応科学研究機関(ICAS)<br>准教授 田村 誠                                                  | 城里町商工会事務局長 泊 和太<br>筑西市明野商工会エコの木プロジェクト<br>部会長 島田 敏                                     | 地域連携で生み出すいばらきエコ・ネット<br>ワークによるまちづくり                                                    |    |
| 5  | 早稲田大学大学院<br>環境・エネルギー研究科<br>教授 紙屋雄史                                                      | NPO法人<br>早稲田環境市民ネットワーク<br>代表 神坐侃大                                                     | 学生と地域市民で取り組む環境保全型農業<br>の実践                                                            | 継続 |
| 6  | 早稲田大学<br>人間科学学術院<br>教授 柏 雅之                                                             | WAVOC公認プロジェクト<br>「農と食と緑の学校inおけら牧場・ラー<br>バンの森」代表 久保田麻未                                 | 「農と食と緑の学校inおけら牧場・ラー<br>バンの森」の実践と研究                                                    |    |
| 7  | 早稲田大学大学院<br>環境・エネルギー研究科<br>助教 切川卓也                                                      | 豊島学（楽）会<br>代表委員 安岐正三<br>中地重晴                                                          | 豊島をモデルとした自然環境・地域再生プ<br>ロジェクト                                                          | 継続 |
| 8  | 早稲田大学<br>平山郁夫記念ボランティアセンター<br>研究助手 加藤基樹                                                  | WAVOC公認 まつだい早稲田<br>じょんのびプロジェクト<br>代表 内藤貴浩                                             | 学生ボランティアと地域活性化による環境<br>保全の連携に関する研究                                                    |    |
| 9  | 山梨大学大学院<br>医学工学総合研究部<br>准教授 長谷川直哉                                                       | 日本感性工学会価値創造部会<br>部会長 勝瀬典雄                                                             | 排出量取引が企業の環境経営及び企業価値<br>形成にもたらすインパクトに関する実証的<br>研究                                      |    |
| 10 | 早稲田大学 大学院<br>環境総合研究センター<br>教授 関谷弘志                                                      | 学生環境NPO 環境ロドリゲス<br>em factory<br>代表 河瀬航大                                              | 環境とビジネスとのバランスを感受した学<br>生を輩出するための研究・活動                                                 | 継続 |
| 11 | 早稲田大学<br>環境総合研究センター<br>准教授 小野田弘士                                                        | 新宿区エコ事業者連絡会<br>会長 落合千秋                                                                | “早稲田発” サステナブル都市「新宿」に<br>おける地域共創型の温暖化対策推進に関す<br>る実証研究                                  | 継続 |
| 12 | 早稲田大学<br>平山郁夫記念ボランティアセンター<br>助教 岩井雪乃                                                    | WAVOC主宰<br>「海外ボランティアリーダー<br>養成プロジェクト（ボルネオ）」<br>代表 昆野正照                                | マレーシア移民集落における衛生環境改善<br>のための環境認識研究と学生ボランティア<br>活動                                      | 継続 |

（代表者名、団体名、研究課題は、2009年7月30日時点のものです）

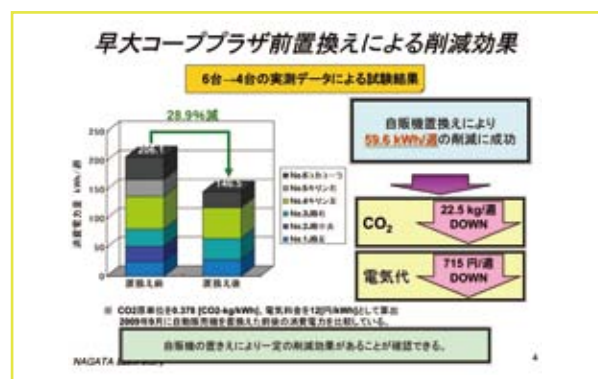
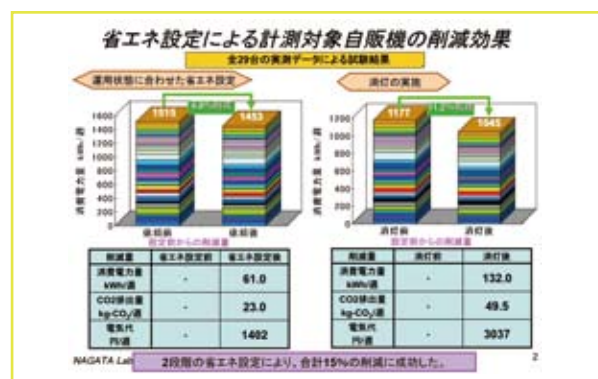
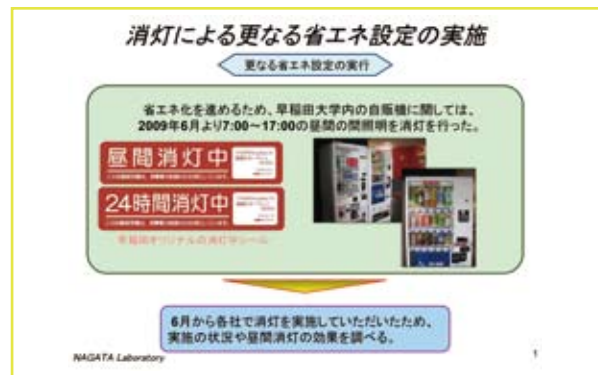
## 早大自販機省エネプロジェクト

現在、CO<sub>2</sub>排出削減への取り組みが喫緊の課題となっています。早稲田大学もその例外ではなく、CO<sub>2</sub>排出量を抑制することが強く求められています。学内に設置されている飲料用自動販売機(以下、自販機)は、台数も多く24時間稼働しており、多くの電気を使用しています。自販機の年間の消費電力は、家庭の年間消費電力の7割ともいわれています。こうした背景から、環境・エネルギー研究科永田・小野田研究室では、自販機の設置環境、売上の状態から、最適な台数・容量をシミュレーションできる「最適配置・運用評価ツール」を開発してきており、全国各地での実証試験を通じてその有効性を確認してきました。そこで、これまで培った知見を学内の自販機に適用し、自販機の電力を削減するプロジェクトを大学ならびに早稲田大学生活共同組合の協力を得て展開しています。対象を早稲田・戸山・西早稲田キャンパスの自販機として、現在29台に計測器を設置して、自販機の運転状態のモニタリングをしています。

最適配置・運用評価ツールによる診断結果より、売上の状況に対して、自販機の設置台数が過剰であり、運用方法の改善による削減の余地があることがわかりました。省エネ化の最初のステップとして自動販売機の照明の設定変更や深夜の冷蔵機能の停止などを行った結果、電気使用量で約4%の削減効果を確認しました。さらに、早稲田大学内の自販機の全面的な消灯を行うことで更なる省エネ化を行いました。消灯を行っている学内の自販機には図のようなシールが張られています。運用段階での省エネ化と消灯を行った結果、消費電力を約15%低減させることに成功しました。

また、次のステップとして、最適な容量への自販機の置換えも段階的に行っています。実際に置換えを行った早稲田キャンパス17号館コーププラザ前の自販機では、売上の状態から、削減のシミュレーションを行うことで設置の見直しを行い、従来の10台から6台へと削減を行いました。その結果、消費電力を省エネ対策からさらに約30%削減することに成功しました。自販機を置き換えることと同時に、自販機的设计を一新し、早稲田カラーのデザインに統一しています。この早稲田カラーの自販機が省エネ診断を受けたお墨付きの自販機となっています。こうした形で、学生や教職員向けの温暖化対策の重要性をアピールしていきたいと考えています。

今後は、自販機の消費電力量を本プロジェクト発足時点から60%削減するという目標を掲げ、その実現に向けた活動を継続して展開していきます。関係者の理解・協力を得ながら、早稲田カラーの自販機を全学に広げていきたいと思ひます。



## 喫煙対策

早稲田大学では、受動喫煙防止のため、各キャンパスの屋外に喫煙所を設置し、学内の「分煙化」の徹底に努めています。

### 教職員による定期的な喫煙巡回を実施

毎年、キャンパス内における分煙・喫煙マナーの徹底を図るため、教職員による巡回(4月初旬の新勤期間は毎日、4・5月については、週2回、6月以降は月2回、昼休みの時間帯)を行っています。現在、早稲田キャンパスに9箇所の屋外

喫煙所を設置し、分煙化を図っていますが、依然として歩きタバコ、所定場所以外(最近はラウンジでの喫煙)での喫煙などが見られるため、次年度以降も引き続き巡回を実施し、分煙の徹底に努めています。なお、2009年度からは、

トライアルとして全学共通講義を設置し、喫煙が及ぼす健康被害、喫煙マナーについて触れ、健康で快適な大学の実現を目指しています。2010年度は「わせたライフABC」として、新入生に視聴してもらいます。



教職員による喫煙巡回(早稲田キャンパス)

### たばこのこと、もっと知って考えよう

### 早稲田大学と新宿区、よしもとが「お笑い健康トークライブ」を開催

2009年10月12日(月)、早稲田大学・新宿区共催、(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー協力による「喫煙」をテーマにした「お笑い健康トークライブ」が早稲田キャンパスの小野記念講堂で開催されました。当日は、約90名の学生や地域住民などの来場があり、よしもと所属のハリガネロック

の司会でスタートし、まず3組の若手芸人がネタを披露。その後、国立精神・神経センターをはじめとする専門家講師陣と若手芸人らとの軽快なトークを織り交ぜながら、たばこの害と依存性や、たばこを吸いなくなった時のストレスを発散させるためのリラックス法、たばこの歴史などが紹介されました。



## PCリサイクル

研究室や箇所独自で購入したPCで不要となったものについて、西早稲田キャンパスでは年間3回ほど回収しています。2006年度までは廃棄物として廃棄物置場に置かれ、廃棄物収集運搬業者により回収され、相応の廃棄費用も必要でした。

本来リサイクルできるものが廃棄物として処理されていたPCについて、2007年度より、環境安全管理課がリユース・リサイクルを進めることになり、西早稲田キャンパスにおいて試運用をすることとなり現在に至っています。

リユースのメリットは、廃棄物の減量・削減、環境への配慮と廃棄費用の削減等が考えられます。廃棄物置場に放置されるPCは、リユースPCとしての価値が低下するため、リユース専門業者に受け渡す方法をとっています。

なおハードディスク内に残っているデータ等のセキュリティについては、PCが作動する場合は米国国家安全保障局(NSA)方式でデータ消去を行い、PCが作動しない場合はハードディスクを物理的に破壊しています。



### 【不要パソコン等回収結果】

| 実施日             | 実施時間        | 引取業者         | 搬出箇所 | ノートPC         | 本体  | モニター |
|-----------------|-------------|--------------|------|---------------|-----|------|
| 2008年6月10日・11日  | 14:00～16:00 | (株)パシフィックネット | 72   | 55            | 199 | 101  |
| 2008年11月6日・7日   | 14:00～16:00 | (株)パシフィックネット | 71   | 53            | 175 | 96   |
| 2009年3月11日・12日  | 14:00～16:00 | (株)パシフィックネット | 97   | 62            | 201 | 92   |
| 2009年7月7日・8日    | 14:00～16:00 | (株)ブロードリンク   | 114  | 74            | 300 | 92   |
| 2009年11月11日・12日 | 14:00～15:30 | (株)ブロードリンク   | 83   | ※報告書未着のため詳細不明 |     |      |
| 2010年3月11日・12日  | 14:00～15:30 | 未定           |      |               |     |      |

## 早稲田大学生協の環境活動

～生協環境委員会ecoop.wasedaと生協店舗の活動～

### 生協環境委員会 ecoop.wasedaとは

早稲田大学生協同組合（以下「生協」）は各キャンパス内に食堂・購買・書籍のお店をもつ非営利組織です。早稲田大学で学び・生活する学生・院生・教職員の皆さんから出資金をお預かりし、組合員になっていただいて運営しています。生協が目指している「より良い生活と平和のために」は地球環境を守ることが不可欠であることと同時に、環境問

題が組合員の大きな関心となっているため、1999年に設置した生協環境委員会ecoop.wasedaを軸に学生と一緒に環境活動を行っています。生協環境委員会ecoop.wasedaの活動の特徴は、自分自身が主体的に行動することによって、生協の商品・サービスを介して学内の環境や学生の皆さんに大きな影響を与えることができるという点です。

### 生協環境委員会ecoop.wasedaと生協店舗の環境活動

活動としては①生協は学内で生活する方々に多くの食事や商品・サービスを提供しているため、「レジ袋削減」「ホッかる・リリバック容器回収」「割箸リサイクル」等、大学の環境に直接影響を及ぼすゴミの量を減らそうという取組。

②これから社会に巣立っていく学生さんたちが環境について考えるキッカケとして店舗での「環境フェア」「エコツアー」の開催。

③早稲田生協での取り組みを社会に広げるため「地球感謝祭への出店」や全国の大学生協で開催している環境セミナーへの参加などがあります。

生協の環境活動等に関するご意見は店舗の一言カードにご記入ください。そして可能であれば、そのご意見を実現するために生協環境委員会ecoop.wasedaと一緒に行動していただくと嬉しいです。



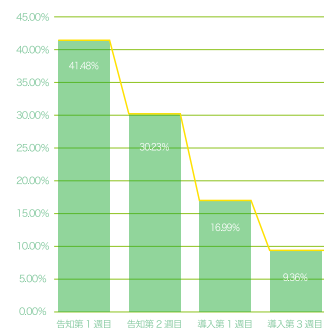
ホッかる容器回収率調査



環境フェア

※結果はレジ袋使用率が38%→11%とダウン。

2008年11月17日から一週ごとのレジ袋使用率を調査。レジ袋使用率＝レジ袋使用枚数/レジ通過客数で算出。早稲田大学生協 Ecoop-waseda（環境委員会）



屋久島エコツアー

## 新築建物の環境性能（早稲田キャンパス新11号館）

### 商学学院・国際教養学院の新しい拠点

教育研究活動の基盤となる施設整備として、創立125周年記念事業の一環である早稲田キャンパス新11号館が2009年3月に竣工しました。新11号館は、地上14階建て（地下2階）、延床面積34,225.75㎡、最高高さ68.5mで、面積は早稲田キャンパスで最大、高さは法学部がある8号館を超え、大隈記念タワー（75.75m）に次ぐ規模となりました。この新11号館は、商学学院・国際教養学院の拠点として活用されています。

アトリウム最上部には、トップライトを配置し、教室エリアの共用部の自然採光を促すと共に、1階からつながるエスカレータ廻りの連続した吹き抜け空間を利用した室内環境制御システムを構

築しています。この吹き抜けにより、中間期には、高低差を活用した自然通風を促進するとともに、夏期・冬期の空調期には教室の余剰空調をアトリウムに排出することで、熱のカスケード利用を行い、省エネルギー化を図っています。また、各種センサーによる照明制御など、多岐にわたる環境共生手法を採用し、単位面積あたりのCO<sub>2</sub>年間排出量を2007年の学内平均に比べ、約27%の削減を図り、環境負荷の低減に貢献しています。各階には障がい者用トイレが完備され、段差をなくしたバリアフリー構造となっており、障がい者のアクセシビリティにも対応しています。



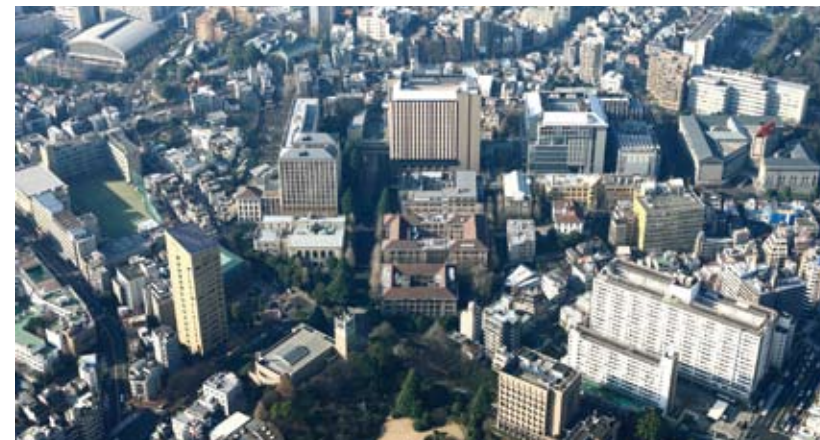
大隈銅像付近からの11号館



B1：ライブラリーガーデン



5～8F：アトリウム



上空から見た11号館（中央上）

# 安全への取り組み

活発な教育・研究活動のために、安全・安心・快適なキャンパスは最低限必要なものだと考えます。安全・安心・快適であることは、当然のことであるため、それを維持するための取り組みは、日頃、人の目にとまることはありません。

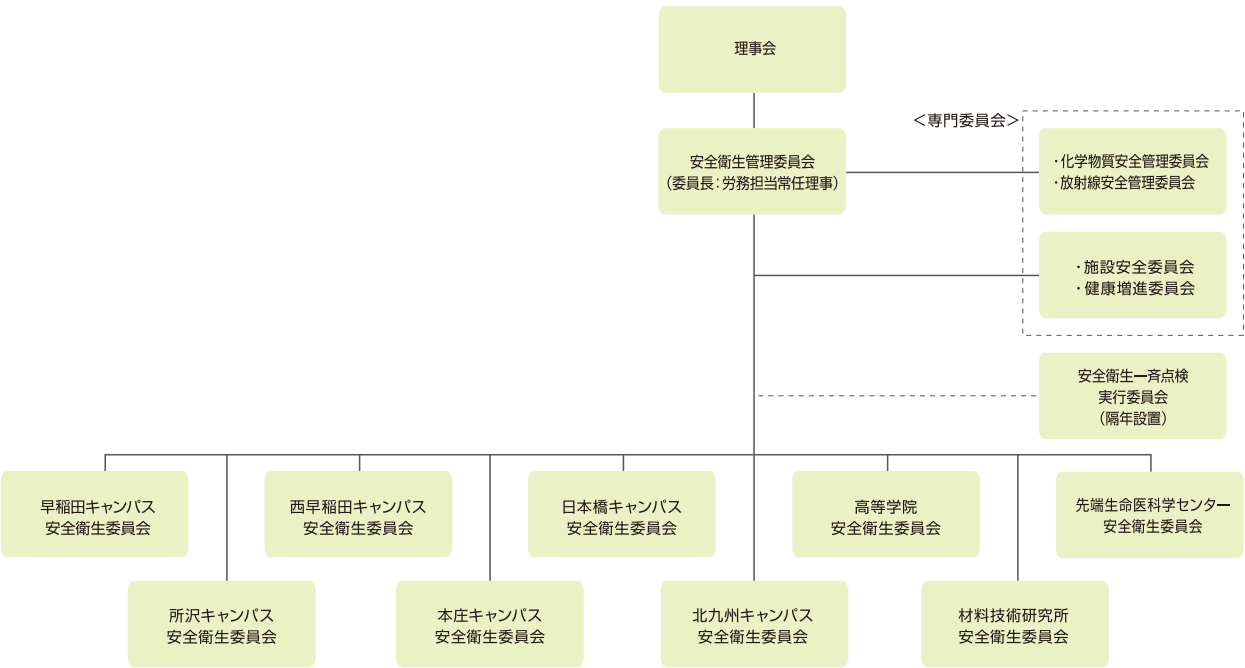
事故を未然に防ぎ、また万が一、災害が発生した際、適切に対応できるよう、さまざまな努力と工夫がなされています。



# 労働安全衛生の取り組み

早稲田大学では労働安全衛生法に基づき、安全衛生管理体制を構築し運用しています。定期的な安全衛生点検（巡視）と共に、2年に一度、安全衛生一斉点検を実施し、大学内の事故・災害の原因となりうる箇所の洗い出しと改善を行っています。

安全衛生管理体制図



## 早稲田大学安全衛生宣言

早稲田大学は、「早稲田大学教旨」に掲げる理想を実現するために、本学を構成するすべての教職員および学生・生徒の安全と健康を確保するとともに、快適な教育・研究・職場環境の形成が重要であることを認識し、自主的かつ継続的な安全衛生活動を推進します。

- 1. 早稲田大学は、災害を防止し、教職員および学生・生徒の安全を確保します。
- 2. 早稲田大学は、教職員および学生・生徒の健康の保持増進を推進します。
- 3. 早稲田大学は、教職員および学生・生徒の、安全と健康を重視する意識の向上を図ります。
- 4. 早稲田大学は、安全衛生関係法令および本学が定めた安全衛生関連規定等を順守します。

2009年6月26日制定

# 大地震に備えて

## 学生災害ボランティアの活動

関東大震災時、早稲田大学の学生・教職員が、押し寄せる大火から、大学や町を守り、被災者の救援と復興の一端を担った歴史があります。その誇りある歴史に鑑み、近い将来起こるであろう大地震に備え、有志による学生災害ボランティア組織「早稲田災害対策学生チーム」（早稲田レスキュー）が活動しています。高齢化がすすむ大学周辺の町は、震災時に、住民の救援や町の復興に多くの人手が必要となることが予想されます。

そのため早稲田大学の学生がボランティアとして積極的に協力することが望まれます。

早稲田レスキューのメンバーは、日頃は知識やスキルの習得、行政や関係団体との情報交換を行い、いざ地震が発生した場合には、多くの学生ボランティア志願者のリーダーとして円滑に活動できるような役割を担います。

## 大地震対応体制

早稲田大学では、震度6弱以上の地震が起きた場合、人的・物的被害を最小限にし、早期に大学運営を復旧するため総合的な地震対策を行ってきました。大地震対応マニュアル作成、防災倉庫の設置、災害用井戸の設置、建物の耐震診断と補強、防災訓練の実施などはその一例です。

また、早稲田大学は各自治体と避難所の協定を締結し、大地震発生時、避難する近隣住民のみなさまを受け入れる体制を整備しています。2008年度には早稲田キャンパス周辺が、大地震等による火災発生時にも安全な場所として、東京都により広域避難場所に指定されました。



防災倉庫（9号館前）



災害用井戸（貯水槽）



「携帯版」は学部・研究科事務所等の配付物コーナーで配布中

▲大地震対応マニュアル（左：冊子 右：携帯版）  
※「大地震対応マニュアル」は、以下のURLで公開しています。  
<http://www.waseda.jp/ecocampus/saf/inschool/index.html>

## 16号館で本格的な防災訓練を開催

教育・総合科学学術院を対象とし、2009年11月16日（月）、秋の火災予防運動週間に伴い、防災訓練が開催されました。はじめに16号館において火災を想定した避難訓練が実施され、その後、新宿消防署、新宿区立防災センターの協力により、14号館前広場で起震車、煙ハウス体験などが行われました。また、早稲田レスキューによって、約400人分のアルファ米（炊出しご飯）も配給されました。学生と教職員は普段なじみのない、消火器やAEDなどを実際に使用し、防災意識の向上に努めました。



AEDの使用方法に聞き入る学生と教職員



煙体験ハウス



早稲田レスキューによるアルファ米（炊出しご飯）の配給



起震車による地震体験



避難訓練本部



消火器体験

# キャンパスセキュリティ

～安全・安心なキャンパスを目指して～

早稲田キャンパスは「門のない大学」といわれています。創立者・大隈重信の開放性を具現したもので「開かれた大学」と近隣の方に親しまれています。誰にも開かれており、しかも大学と町とが渾然一体となった雰囲気、自由な学風の醸成とワセダらしい学生気質の形成に与えた影響は大きいといわれています。

安全を脅かす事件が発生する社会状況の中で、安全を損なわず「開かれた大学」を維持するために、早稲田大学はさまざまな試みを行っています。警備員を計画的に配置し、24時間体制で巡回、警備を行い、安全でしかも開放的なキャンパスを実現しています。



## 吹付けアスベスト対策

早稲田大学では、アスベストが原因とされる疾患が問題視された1988年から1990年にかけて、主に天井部分に使用された吹付けアスベストに対し、薬液による封じ込め工事を行い、空気中への飛散防止処理を施しました。2005年度には、アスベストの危険性が社会問題と化している昨今の状況を鑑みて、室内空気中のアスベスト濃度の測定を実施しました。調査の結果、すべての箇所アスベストの飛散

が認められない安定状態であることが確認されましたが、建物の長期的な利用を考えると撤去をする事が最善と考え、計画的に吹付けアスベストの撤去を行うこととしました。2006年度より吹付けアスベストの撤去工事を始め、2009年度には一部の撤去が困難な電気室等を除き、撤去工事を完了しています。



室内空気測定の様子



# シックハウス対策

建物の高气密化や化学物質を放散する建材の使用などにより、室内空気中含まれる化学物質の量が増加し、新築・改修した建築物の利用者が体調不良を起こす、シックハウス症候群が問題となっています。早稲田大学では、大学の施設を利用する方々にそのような症状が出ないよう、主に以下の取り組みを行っています。

- ・新しく建物を建てる際には、化学物質の放散量の少ない建材や家具を使用しています。
- ・適正な換気量が確保された設計としています。
- ・新築や改修を行った箇所を中心に室内空気測定を継続的に実施し、「学校環境衛生の基準（文部科学省）」で定める室内濃度指針値を下回っているかどうかをチェックしています。



測定器

## 学校環境衛生の基準で定める化学物質

| 化学物質名      | 主な発生源                | 指針値（ $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ） |
|------------|----------------------|---------------------------------|
| ホルムアルデヒド   | 合板、接着剤、防腐剤           | 100                             |
| トルエン       | 接着剤、塗料の溶剤・希釈剤        | 260                             |
| キシレン       | 接着剤、塗料の溶剤・希釈剤、油性ペイント | 870                             |
| エチルベンゼン    | 接着剤、塗料の溶剤・希釈剤        | 3,800                           |
| スチレン       | 接着剤、断熱材、畳心材          | 220                             |
| パラジクロロベンゼン | 防虫剤、芳香剤、消臭剤          | 240                             |

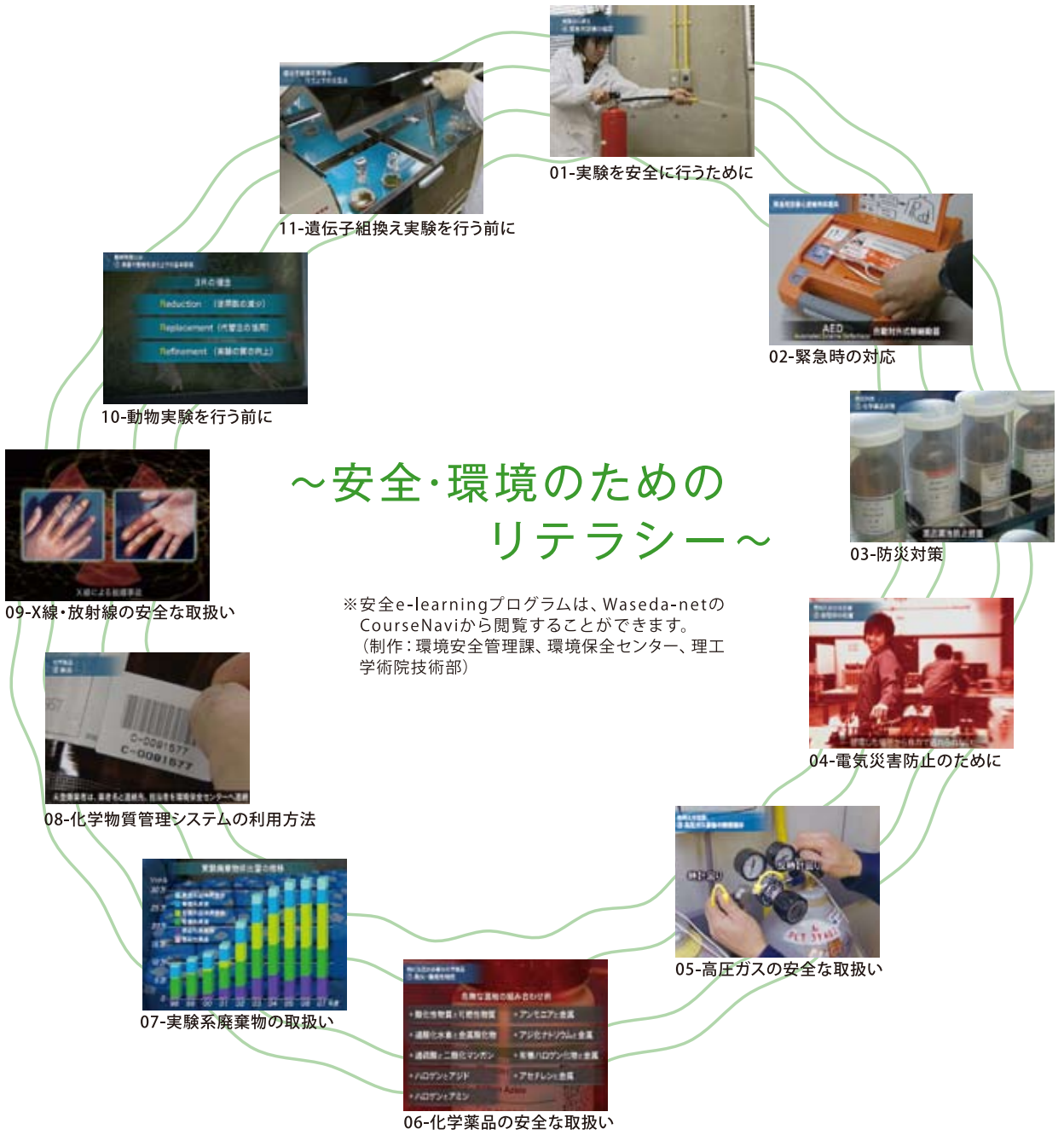
## 近年の早稲田大学の主な建物建設使用状況

|          |                                                       |
|----------|-------------------------------------------------------|
| 2005年2月～ | 早稲田キャンパス8号館<br>小野梓記念館                                 |
| 2006年3月～ | 大隈記念タワー                                               |
| 2008年4月～ | 西早稲田（旧・大久保）キャンパス63号館<br>東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設 |
| 2009年4月～ | 早稲田キャンパス11号館                                          |
| 2009年9月～ | 所沢キャンパス101号館                                          |

# 安全e-learningプログラム

大学における研究活動が高度化するにつれ、研究活動による自然環境への影響も多様化してきています。また、理工系では、新規の化学反応や自作装置での実験等、プロセスや結果が明らかでない実験操作が多いため、実験に潜在するリスクも高くなります。自分の研究活動がどのように環境に負荷を与えているか、実験をする上でどのようなリスクがあるのか、そのリスクを回避するために何をすべきか、実験前に準備を重ねることは研究者としての責務であり、大学はその方法について教える義務があります。

早稲田大学では、学生の実験における安全と環境を守るために、2008年より安全e-learningプログラムを提供しています。これは、安全・環境教育リテラシーとして位置づけられるもので、化学薬品や高圧ガスを使用する上での安全管理上のポイントや法令情報について、また防災対策や緊急時の対応などについて学べる内容になっています。2009年10月には英語版が新たに公開され、2010年度からは「工作機械を扱う際の安全対策」が公開予定です。



# 化学物質の安全管理

早稲田大学では、理系の学部・大学院において実験が行われています。その中で薬品などの化学物質を使った実験では、取り扱いに注意が必要な場合があります。早稲

田大学では、「教育研究活動における安全の確保」を重要課題とし、事故を未然に防ぐための様々な取り組みを行っています。

早稲田大学では、理工学部のある西早稲田キャンパスをはじめとして、早稲田キャンパス、研究開発センター、所沢キャンパス、先端生命医科学センターなど、さまざまな箇所では薬品や高圧ガスなどの化学物質を使用しています。化学物質の適正使用・適正管理を徹底するため、化学物質の出入りを管理する全学共通の化学物質管理システム（CRIS）を構築し、2005年度から運用しています。これによって、各研究室・実験室から自室の在庫薬品をWebで閲覧することが可能となり、また万が一、火災等の不測

の事態が発生した場合にも、該当箇所の在庫薬品情報を、数分以内に消防署等に伝える体制を整備することができました。2009年度からは、各キャンパスの薬品管理窓口において、すべての薬品・高圧ガスの納品確認を行い、納品書に確認印を押印する体制とし、化学物質管理をより充実させました。今後も、安全に関する講義・講習会を充実させて学生等の意識啓発を図り、より安全な研究・実験環境を整えるなど、ソフト・ハード両面において安全な化学物質管理を推進していきます。

- ・「安全のてびき」やニュースレターの発行
- ・安全e-learningプログラムによるリテラシー安全教育
- ・学部1年生からの段階に応じた教育実験（薬品や実験器具の安全な取扱い実習を含む）
- ・卒・修論生を対象とした「化学物質取扱いに関する環境保全・安全説明会」や「安全講習会」の実施
- ・定期的な安全巡回や「安全サポートグループ」による安全対策の検討・提案



ニュースレター「環境保全」



化学物質の取り扱いに関する環境保全・安全説明会

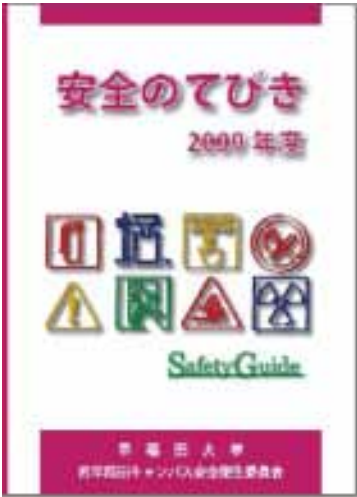


化学物質管理システム（CRIS）メニュー画面

# 実験系の安全管理

早稲田大学では、西早稲田キャンパスを中心に「教育研究活動における安全の確保」を重要課題とし、事故を未然に防ぐための様々な取り組みを行っています。また、不本意ながら事故が発生してしまった場合には、被害を最小限にとどめる事はもとより、その事故から最大限の再発防止策を学びとり、より安全な環境の構築に注力しています。このような観点から、教育研究活動を展開する上で順守しなければならないルールを、近年の事故事例などを踏まえながら解説「安全

のてびき」を毎年作成して教職員および各研究室に配布しています。定期的に「安全講習会」等を開催し、卒・修論生に対して安全教育も行っています。また、日々の研究活動を、安全という観点からサポートするために、技術系職員による「安全サポートグループ」を組織し、学生・教職員と積極的なコミュニケーションをとりながら、最も良好な対応策の検討・提案、および具体的な施策を行っています。今後も継続して事故ゼロを目指し、最善を尽くして参ります。



# 防火・救命の体制

学業に専念し、研究に打ち込むためにも、安全・安心なキャンパスは最低限必要なものと早稲田大学は考えます。

その安全・安心なキャンパスを維持するため、職員は自衛消防隊を組織し、万が一火災が発生した場合には早急に消火活動ができる体制をとっています。

また、キャンパス内で急病人が出た場合、応急手当ができるよう職員は消防署による救命講習を受講し、心臓マッサージや応急手当のスキルを身につけています。2013年度までに教職員のおよそ30%が救命救急のスキルを持つことを目指します。

学内各所には、AED（自動体外式除細動器）・車椅子・担架等を設置しています。AEDは、現在、学内の54カ所に設置しており、設置場所は、以下のURLで公開しています。

<http://www.waseda.jp/ecocampus/saf/activity/firepre.html>



救命講習会



AED設置シール



AED本体

## 2008-09年度に実施した主な防災関係の活動（抜粋）

| 日 時      | 活 動 内 容                                    | 参 加 者                           |
|----------|--------------------------------------------|---------------------------------|
| 09'01.23 | 大隈記念講堂（重要文化財指定建物） 消防訓練（AED対応含む）            | ・自衛消防隊<br>早稲田レスキュー、消防団          |
| 09'03.23 | 先端生命医科学センター 消防訓練<br>化学物質管理システム緊急時運用訓練      | ・早稲田大学教職員・学生<br>・東京女子医科大学教職員・学生 |
| 09'06.01 | 西早稲田キャンパス 避難誘導訓練                           | ・教職員・学生                         |
| 09'06.19 | 戸山キャンパス 普通救命講習                             | ・教職員                            |
| 09'06.25 | 本庄高等学院 通報/避難誘導訓練                           | ・教職員・学生                         |
| 09'06.29 | 早稲田キャンパス 普通救命講習                            | ・教職員                            |
| 09'07'02 | 高等学院 普通救命講習                                | ・教職員                            |
| 09'07'31 | 各務記念材料技術研究所 消防訓練                           | ・教職員・学生、消防団                     |
| 09'09'11 | メディアネットワークセンター 消防訓練                        | ・教職員・学生                         |
| 09'09.11 | 新宿消防署自衛消防審査会                               | ・自衛消防隊                          |
| 09'10.17 | 本庄ドミトリ－A/B棟 通報/消火/避難誘導訓練                   | ・教職員・学生                         |
| 09'10.29 | 西早稲田キャンパス 普通救命講習                           | ・教職員・学生                         |
| 09'11.16 | 早稲田キャンパス（16号館） 総合防災訓練                      | ・教職員・学生、早稲田レスキュー                |
| 09'11.18 | 西早稲田キャンパス 避難誘導訓練                           | ・教職員・学生                         |
| 09'11.25 | 120－5号館（ナノ理工学研究機構）（先端科学・健康医療融合研究機構） 避難誘導訓練 | ・教職員・学生<br>・研究施設利用者             |
| 09'12.03 | 本庄キャンパス 上級救命講習                             | ・教職員                            |

## 社会との取り組み

教旨に「学問の活用」が明示されているように、早稲田大学の教育・研究は、常に社会に役立つことに重点が置かれてきました。

社会的責任という言葉を目にするのが多くなりましたが、社会的責任を負わない大学はありません。しかしながら早稲田大学において社会への貢献は、その歴史において、その活動分野の幅広さにおいて、その活動が人間の存在に深く根ざしている点において、際だっていると自負しています。

それは各界で活躍してきた多くの早稲田大学関係者の足跡を辿ることで、明らかになるでしょう。ここでは近年大学が取り組んでいる社会との取り組みをご紹介します。



大隈記念講堂時計塔の鐘

## 早稲田文化の発信拠点として

早稲田大学は文学・演劇・芸能・美術・音楽などの芸術の分野において、実に多くの傑出した人材を輩出してきました。その活躍や功績は日本有数であり、また、文芸分野での研究も盛んに行われてきました。いつの時代も早稲田大学には「文化の潮」が渦巻いてきました。

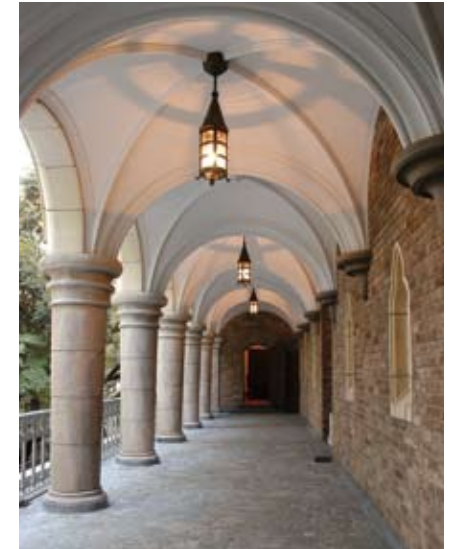
そのような創立以来127年の歴史の中で、蓄えられた貴重な文化資源が本学には多数あります。国宝2件、重要文化財6件、重要美術品8件を含む図書資料、美術品、書画、博物資料、映像資料、記録文書類など約500万点以上を有します。

早稲田大学ではこれらの文化的財産を教育・研究に活用すると共に、坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、大学史資料センター、大隈記念タワー125記念室、ワセダギャラリーなどで、広く一般に無料で公開しています。

また、大学のシンボルである大隈記念講堂は2007年12月に国の重要文化財に指定され、そこでは現在も演劇や演奏会・上映会・講演会・シンポジウムを開催しています。

坪内博士記念演劇博物館は坪内逍遙の古希と「新修シェークスピア全集」全40巻の完訳を記念して、1928年に建てられ、現在、新宿区有形文化財に指定されています。演劇関係の資料の豊富さには定評があります。

本学が誇る早稲田文化を体験されるようぜひ、キャンパスにお越しください。キャンパスを散策しながら、大隈記念講堂をはじめとする伝統的な建築物群と本学が収蔵する貴重な文化資源の展覧会をご覧ください。「何かを知る喜び」を改めて実感していただけるでしょう。



大隈記念講堂回廊



坪内博士記念演劇博物館

## 公開講座・生涯学習

### 公開講座・シンポジウム

早稲田大学のキャンパスを歩いてみてください。公開講座の開催を知らせる看板やポスターがそこかしこに立っています。ほぼ毎週、公開講座やシンポジウムが行われています。

テーマは様々で、普段は聴くことのできない講義があったり、白熱するディスカッションがあったりしますが、共通しているのはどれも知的刺激に溢れていることです。

### いつまでも学び続けたい! エクステンションセンター

早稲田大学は、創立当初より校外生を対象にした「早稲田講義録」の刊行、各地での「巡回講話」の開催等を通じ、生涯学習の推進に取り組んできました。エクステンションセンターは、この伝統をふまえ、大学の持つ研究教育機能を広く社会に開放することを目的に1981年に発足しました。現在では早稲田校、八丁堀校あわせて年間約1400講座の市民講座を開講し、約3万人の受講者が学んでいます。



生涯学習の拠点エクステンションセンター

## 地域の小中学生に理科の楽しさを伝えたい!～ユニラブ～

1988年、早稲田大学理工学部創設80周年を機に「開かれた大学」をめざし、地域社会とのつながりを積極的に深めるために、小中学生を対象とした科学実験教室「ユニラブ(University Laboratory)」が、企画されました。子ども達は西早稲田キャンパスで大学の設備を使い、教員・職員・学生と一緒に、見て・触って・感じて、楽しみながら科学への興味や関心を育みます。

近年は、理工系各分野の教員とその研究室メンバー、技術系職員による実験企画、さらに学生サークルが企画した実験も実施され、「ユニラブ」を盛り上げています。



この「ユニラブ」は2009年で22回を数え、参加者は述べ15,000名に達します。

2009年度は、これまでの積み重ねを活かし、質、内容、規模をグレードアップした「小中学生のための科学まつり ユニラブ」を開催しました。参加した子ども達がいろいろな実験を体験し、「理科」の楽しさを感じ、興味を抱くように、また、「早稲田の理工でこんな勉強がしたい!」と志を持つことができるような夢と希望を与え、社会の発展に寄与する取り組みを今後も推進していきます。



### 第22回ユニラブ実験項目

エコスクール:酸性雨ってなんだろう?

とびだす絵をかこう

リフォームしよう!!

じょうぶでこわれないシャボン玉をとぼそう

みんなでつくろうエコタウン!!

時計のような化学反応 ～色がつくまでの時間は?～

火を使わずにお湯をわかそう!お湯を使ってエンジンを動かそう!

「おわんくらげ」 光る! 不思議… ～なぜノーベル賞なの?～

やってみよう!「いもの」作り! ～「いもの」ってなに?～

光に反応するロボット車を作ろう!

工作機械を使ってホイッスルを作ろう!

地球環境にやさしいポンプを作ろう

ライフサイクルゲーム ～自動車の一生を知ろう!～

地震の揺れを見てみよう

電池とエネルギー ～電池選手権～

レンズを作ろう!

みじかな金属材料の性質に関する実験

DNAに見る個性

エコ発電ゲーム ～Catanの発電者たち～

## 共に学ぶ障がい学生への正しい理解と支援を推進

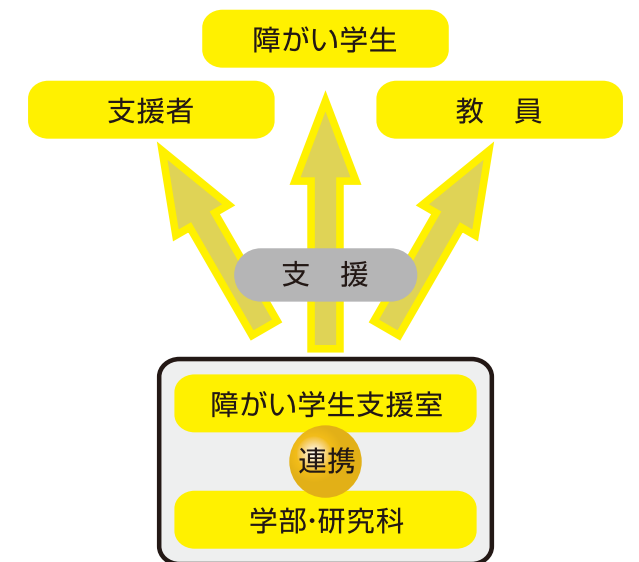


パソコンテイクの様子

早稲田大学には、障害を持った学生も学んでいます。2006年に全国の大学でも先駆けとして設立された障がい学生支援室には、障がい学生支援コーディネーターが常駐しています。現在、サービスを利用している学生は、聴覚障害11名、視覚障害5名、肢体不自由7名の23名です。

サービスには様々な種類がありますが、例えば聴覚障害の場合、授業に出席する際に、2人の支援者が教員が話していることをノートに書いたり(ノートテイク)、パソコンに入力したり(パソコンテイク)して、情報を伝えます。支援者に対しては、半期に1回、養成講座を開講し、技術の習得だけでなく、障害に対する理解も深めてもらい、活動をフォローしています。支援者はほとんどが学生で、現在は約150名が活動していますが、時間や専門性をマッチングすると支援者の数が足りないのが現状です。

また、障がい学生を担当する教員に対しても、障害に関する基礎知識や配慮方法などの情報を提供していますが、まだ、十分に正しい理解が浸透しているとは言えません。一人でも多くの人に障害に対する正しい理解を広め、支援者を増やしていきたいと考えています。



## 早稲田を体感！ 個性豊かな学生ガイドによるキャンパスツアー

早稲田大学では、広く一般の方々に大学に対する理解を深めていただくため、1989年よりキャンパスツアーを実施しています。各キャンパスとも、個性豊かな早大生ガイドが大学の歴史や学生生活のエピソードをまじえながら、キャンパスのみどころを案内しています。



キャンパスツアーについての詳細、お問い合わせ  
<http://www.waseda.jp/jp/global/guide/tour/index.html>

### ◇早稲田キャンパス

2007年12月に国の重要文化財に指定された大隈講堂(2007年10月、改修工事完了)、大隈銅像、総合学術情報センター(中央図書館)、坪内博士記念演劇博物館や2006年にオープンした大隈記念タワーなど伝統と最新の早稲田を紹介しています。



早稲田キャンパス

### ◇学生会館&戸山キャンパス

サークル活動の拠点として2001年にオープンした学生会館や、卒業式・入学式で使用する記念会堂がある戸山キャンパスをご案内いたします。学生生活課や奨学課など学生生活にダイレクトに関わる施設の紹介もしています。



学生会館&戸山キャンパス

### ◇西早稲田キャンパス(旧・大久保キャンパス)

普段は見られない教育・研究用の実験施設や各種教室などを、理工学部生が案内しています。専門的な知識を持たなくても、気軽に参加できます。



西早稲田キャンパス  
(旧・大久保キャンパス)



WAVOCの  
理念



1

社会と大学を  
つなぎます



2

体験的に学ぶ  
機会を広く  
提供します



3

学生が社会に  
貢献することを  
応援します



WAVOCプロジェクト  
では学生の主体的な  
取り組みを大学が支  
援。18歳以上であれ  
ば早稲田大学以外の  
人も参加可能

## Special Report

# ボランティアが つなぐ 大学と社会

## 社会の真実を学ぶ場に

2002年の開設以来、  
本学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）は、  
早稲田大学の社会貢献の推進役を担って、  
学生の学びやアクションを応援してきました。  
WAVOCの活動の今を伝えらるとともに、  
今後のさらなる発展に向けて  
何ができるかを考えます。

### Part.1 - Interview

## WAVOCは、学生が本物の 社会を体験する仕組み

### 社会の真実を学び 人間力を育てる場所

WAVOCは、2002年4月に発足しました。大学の主な使命は  
教育と研究ですが、加えて社会貢献にも取り組むべきである  
という考えのもと、総長を所長として設立されました。今でこ  
そ、大学にボランティアセンターがあることは珍しいものでは  
ありませんが、当時としては先駆的な取り組みだったと思いま  
す。一般的な大学のボランティアセンターは、ボランティアを  
したい人としてほしい人をつなぐマッチング機能が主ですが、  
WAVOCでは当初からプロジェクトと科目の2本柱により、社  
会貢献を担う人材を育てることを主眼に置いてきました。  
現在の教育の問題点として、大学で学んだことと実社会



常任理事 WAVOC所長  
人間科学学術院教授  
野嶋栄一郎

69年本学第一文学部哲学科卒業、71年同大学院文学研究科修士課程  
(心理学専攻)修了。87年本学人間科学部助教授、92年同学部教授を  
経て、現職。博士(人間科学)(大阪大学)。

## WAVOCでできること

**ボランティア関連科目を履修して、  
実社会を体験する**  
早大生なら誰でも履修できるオープン科目を  
提供しています。

**ボランティアプロジェクトに参加して、  
多様な人々とつながる**  
国内外を問わず環境や教育など、さまざまな  
分野で30を超えるボランティアプロジェクトを  
運営しています。これらプロジェクトの主役は  
学生。プロジェクトは18歳以上であれば早大生  
に限らず誰でも参加可能です。

**その他各種プログラムに参加する**  
WAVOCには学生が企画・運営するイベン  
トの他、企業、自治体などの協働プログラム  
も多数あります。

・ボランティアフェア（春・秋各1回）  
WAVOCのプロジェクトが集結し、毎回さまざ  
まな趣向を凝らした企画を展開します。2009  
年は4月24日(金)に開催します。

・環境ボランティア学校（随時）  
日産自動車と協働する「WIN日産」など、  
環境ボランティア体験やワークショップを  
行っています。



ボランティアフェアの様子

**ボランティア関連情報を収集する**  
WAVOC所属の教員が成果をまとめたブック  
レットを無料配布する他、ボランティア経験  
豊富な学生スタッフが皆さんのボランティア相  
談にのっています。

で活躍するために必要なことが必ずしも一致していない  
ということがあります。ボランティア活動では、机上で学んだこ  
とを実践の場で確認し、活用すると同時に、さまざまなパー  
トナーとの協働、活動の企画立案、チーム運営などを通じて、  
人間力を養うことで、社会で活躍するための素地が作れ  
ると考えています。実際、WAVOCのプロジェクト活動の主  
体は学生です。3人の助教と事務所スタッフは学生の背中を  
押してアクセルを踏んだり、時にはブレーキをかけたりして  
バックアップしています。

大学は象牙の塔と揶揄されることもあります。ボラン  
ティア活動は社会の真実に触れる場です。教育的な視点  
で考えれば、WAVOCは学生をオーセンティック（本物）な  
フィールドに送り出す仕組みだと言えるでしょう。

## 教育機関としての 位置づけを目指して

当センターが提供する科目やプロジェクトで活動する学生  
が自らの成長を語った先日のシンポジウムは、WAVOCの今  
後の方向性を確認する上で、非常に大きな意味がありました  
(P13参照)。今後は、次のステップとしてWAVOCの授業を選  
択必修の単位として位置づけ、ゆくゆくは「ボランティア学」  
というテーマスタディとして副専攻にできるまで体系化し、  
WAVOCの教育事業を拡充していきたいと考えています。

WAVOC設立からの7年を振り返りますと、05年度に採  
択された文部科学省の特色GPや各種財団からの助成金、  
個人の篤志家や企業からの寄付金をいただいていることか  
ら、WAVOCの取組が社会的に評価されていることを実  
感しております。しかし、それと同時に、今後さらに発展する  
上で、このような外部からの資金獲得、そして優秀な人材の  
確保がますます必要であり、それらを達成しうる魅力的な  
取組を積極的に展開しなければならないという課題も感じ  
ています。このような課題を解決しながら、大学の宝である  
学生たちの自己成長を促す、質の高い教育を進めていき  
たいと考えています。

## WAVOC講義科目

|                   |
|-------------------|
| ボランティア論 -入門と基礎理論- |
| ボランティア論 -体験の言語化-  |
| 環境とボランティア         |
| グローバルヘルス          |
| 国際開発援助 理論と実践      |
| 自己表現論             |
| 国際交流と社会貢献         |
| コミュニティ論 -入門と基礎理論- |

## 体験的学習科目

|                               |
|-------------------------------|
| 持続可能な生活スタイル論                  |
| Field Study on Peace Building |
| ワークキャンプ論 -実践的リーダー養成講座-        |
| ワークキャンプ論 -実体験の言語化-            |
| 人権と市民活動・ボランティア                |
| カンボジアの文化遺産の保全と村づくりへの国際協力実習    |
| 持続可能な社会と市民の役割                 |
| 東南アジアの開発問題とNGOの役割             |
| コミュニティ論 -展開と実践-               |

## WAVOCプロジェクト例

|      | プロジェクト名                             | 活動地           |
|------|-------------------------------------|---------------|
| 環境   | エココミュニティ・タンザニア                      | タンザニア国内       |
|      | 海外ボランティアリーダー養成プロジェクト<br>(ボルネオ)      | マレーシア・ボルネオ島   |
|      | イグアス地域自然環境保全プロジェクト                  | アルゼンチン        |
|      | 高尾の森づくり                             | 東京都八王子市裏高尾町   |
| 文化交流 | 思惟の森育林                              | 岩手県下閉伊郡田野畑村   |
|      | 日本コリア未来プロジェクト                       | 韓国・タイ         |
|      | 日越学生交流プロジェクト                        | ベトナム          |
| 教育   | 離島交流プロジェクト                          | 沖縄県鳩間島・西表島    |
|      | ラオス学校建設教育支援                         | ラオス           |
| 人権   | DVはつとプロジェクト                         | 国内・韓国         |
|      | ハンセン病問題支援                           | 国内・中国         |
| 農業   | 三芳村里山づくり・有機農業体験実習                   | 千葉県南房総市       |
| 交流   | 難民交流プロジェクト                          | 早稲田大学学生会館     |
| スポーツ | まつだい早稲田じょんのび交流プロジェクト                | 新潟県十日町市松代・蒲生  |
|      | スポーツボランティアプロジェクト                    | 山梨県・海外        |
|      | ダウン症児者・自閉症児者・親きょうだいの<br>ワクワクレスリング教室 | 早稲田           |
| その他  | アトム通貨                               | 早稲田・高田馬場      |
|      | 早稲田レスキュー(災害救援ボランティア)                | 早稲田           |
|      | ルワンダ学生交流会議                          | 早稲田・ルワンダ      |
|      | S.P.K.遺跡の保存と村づくり協力クラブ<br>(Ju-Ju)    | カンボジア・コンボントム州 |

問合せ先 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）  
TEL.03-3203-4192 URL.http://wavoc.jp/